例　　言

1．本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の1994年度の発掘調査報告書である。
2．発掘調査および整理作業は、国庫（1,900,000円）、県費（950,000円）の補助金の交付を受け、平成６年４月４日から平成７年３月31日まで実施した。
3．調査組織

調査主体者	大井町教育委員会		
担当課	生涯学習課文化財保護係		
教育長	小林茂吉（6.9.30まで）	髙橋好次郎（6.10.1～）	
生涯学習課長	石井忠夫	文化財保護係	坪田幹男・高崎直成・鍋島直久
文化財保護係長	岡田眞一	発掘調査担当者	坪田幹男・高崎直成・鍋島直久

4．本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
執　　筆：高崎直成（第Ⅰ、II、V、VI章）、鍋島直久（第III、IV章）、土本医（第Ⅴ章石器）
土器復元：中田藤子　　土器拓影：石垣ゆき子、丹治つや子
実　　測：㈲文化財ＣＯＭ、斎藤尽志、高崎直成、高橋けい子、土本医、鍋島直久
トレース：小林登喜江、須藤さち子　　図版作成：石垣ゆき子、丹治つや子
遺構写真：坪田幹男、高崎直成、鍋島直久　　遺物写真：高崎直成
また、本書の作成にあたり日本考古学協会員の今井堯氏の絶大な援助と協力を得た。
5．各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。
浅野晴樹、荒井幹夫、今井堯、内田賢司、加藤秀之、神木繁嘉、駒井和久、桜井信枝、佐藤正志、笹森健一、島田一郎、鈴木加津子、鈴木仁子、中島宏、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、三上七五郎、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治（敬称略）　埼玉県教育局指導部文化財保護課、大井町大井・苗間第一土地区画整理組合、亀久保特定土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会。
6．発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。
〈発掘調査参加者〉（敬称略）
会沢　泉、秋本太郎、新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、井上晴江、内田信治、海老原サナエ、大井美智子、大曽根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、上岡福蔵、神木光治、川部栄子、河野俊郎、小林こずい、小山エミ子、斎藤尽志、酒井　昭、佐久間ひろ子、佐々木定男、鮫貝有子、菅原　正、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、高木千恵子、高久　彩、高橋明美、千見寺泰臣、戸澤竹二、中嶋末子、仲里しげ子、永塚美千代、並木宗次、野岡由紀子、野上吉樹、野沢松代、橋本弓子、塙　和男、林きぬ子、比嘉洋子、黛　佳代子、三村美代子、宮田　守、森脇やよい、山下一枝、若尾久美子、若林紀美代。
〈整理作業参加者〉（敬称略）
石垣ゆき子、斎藤尽志、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、冨岡康子、中田藤子

凡　　例

1．本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
(1)縮尺は原則として　　遺構平面図・遺物出土状況図　1:60
炉等の詳細図　1:30　　土器実測図　1:4　　土器拓影図・石器実測図　1:3
(2)遺構断面図の水糸高は海抜高を示す。
(3)遺構図中の細数字は、床面もしくは確認面からの深さ(cm)を示す。
2．住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。
3．土器断面図は、「網目」が繊維含有、「黒丸」が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
5．本報告の出土品・記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

2　1994年度　埋蔵文化財調査一覧

No.	遺跡・地点	所在地	面積(㎡)	原因	調査期間	調査結果
1	西台遺跡第2地点	大井897-1、2	6,149	遊技場建設	4/4～4/12	試掘調査 旧石器時代 礫群 縄文時代 集石 土坑
2	本村遺跡第35地点	大井357-1	452	共同住宅建設	4/4～4/12	試掘調査 遺構なし
3	西ノ原遺跡第69地点	苗間106	1,821	店舗建設	4/8～4/27	大井町遺跡調査会で発掘調査 縄文中期 住居跡 屋外炉 土坑
4	西ノ原遺跡第70地点	苗間136	551	店舗建設	5/9～5/17	大井町遺跡調査会で発掘調査 縄文中期 住居跡 伏甕 土坑 ピット
5	東台遺跡第22地点	大井651-6	145.53	店舗建設	5/10～5/11	大井町遺跡調査会で発掘調査 縄文中期 住居跡 土坑
6	小田久保遺跡第3地点	大井1214-3	330	個人住宅建設	6/7	試掘調査 遺構なし
7	西ノ原遺跡第71地点	苗間112	309	個人住宅建設	6/20～7/5	試掘調査 時期不明 おとし穴
8	東台遺跡第23地点	大井649-12、13	285.91	個人住宅建設	6/23～6/27	試掘調査 縄文時代 住居跡
9	東台遺跡第24地点	大井634-20	58.49	個人住宅建設	7/6	試掘調査 縄文時代 集石 土坑
10	鶴ヶ舞遺跡第3地点	鶴ヶ舞1-69-1	141	駐車場造成	7/10	試掘調査 遺構なし
11	本村遺跡第36地点	大井101-9-10	890	共同住宅建設	7/28～8/4	大井町遺跡調査会で発掘調査 旧石器時代 礫群 縄文時代 土坑 中近世 井戸 溝 土坑 柵列
12	亀居遺跡第38地点	鶴ヶ岡2-1-1他	3,162.14	店舗建設	8/22～8/30	大井町遺跡調査会で発掘調査 縄文時代 集石 土坑 おとし穴 近世 根切溝
13	亀居遺跡第39地点	亀久保1008-5	342	駐車場造成	8/26～8/29	試掘調査 縄文時代 炉穴 土坑
14	本村遺跡第37地点	大井251	596	事務所建設	8/31～9/2	試掘調査 遺構なし
15	本村遺跡第38地点	大井253	264.53	個人住宅建設	8/30～9/7	試掘調査 中近世 溝
16	浄禅寺跡遺跡第8地点	苗間357-1	615	宅地分譲	9/20～9/27	試掘調査 時期不明 おとし穴 近世 根切溝
17	浄禅寺跡遺跡第9地点	苗間353	1,266	農地改良	10/18	試掘調査 時期不明 土坑 溝 焼土
18	浄禅寺跡遺跡第10地点	苗間356-1	999.09	宅地分譲	10/31～11/2	大井町遺跡調査会で発掘調査 近世 土壙墓 一石経埋納土坑 溝
19	東台遺跡第25地点	大井648-13、14	296.04	個人住宅建設	10/22～12/16	本調査　縄文中～後期 住居跡 土坑 袋状土壙 ピット 6委保記第5-5066号
20	西ノ原遺跡第72地点	苗間112-109	321.47	個人住宅建設	11/2～11/28	本調査 縄文中期 住居跡 土坑 近世 溝 6委保記第5-6583号
21	本村遺跡第39地点	大井124-1	805	共同住宅建設	11/9～11/16	試掘調査 遺構なし
22	本村遺跡第40地点	大井321-1	131	宅地分譲	11/22	試掘調査 遺構なし
23	本村遺跡第41地点	大井326	413	宅地分譲	11/15～11/22	大井町遺跡調査会で発掘調査 近代 ゴミ捨て土坑
24	本村遺跡第42地点	大井325	201	宅地分譲	11/15～11/22	大井町遺跡調査会で発掘調査 近代 ゴミ捨て土坑
25	浄禅寺跡遺跡第11地点	苗間352-1他	572	道路築造	1/9～2/3	試掘調査 時期不明 湧水口 焼土
26	本村遺跡第43地点	大井153-2、3	704	宅地分譲	1/12～1/19	大井町遺跡調査会で発掘調査 中近世 井戸 土坑 溝 柵列
27	江川東遺跡第2地点	東久保1-162-34	190.90	個人住宅建設	1/20～2/6	本調査 近世 土坑 ピット 7委保記第5-856号
28	本村遺跡第44地点	大井287-1	1,198.68	共同住宅建設	2/17～2/28	大井町遺跡調査会で発掘調査 縄文時代 土坑 おとし穴 中近世 井戸 土坑 道路跡 ピット
29	神明後遺跡第3地点	苗間309-12-13	200.03	宅地分譲	3/24～3/29	大井町遺跡調査会で発掘調査 縄文中期 住居跡 埋甕 土坑 ピット 近世 溝
30	西ノ原遺跡第73地点	苗間92-1	274	個人住宅建設	3/27～3/29	試掘調査 遺構なし
		調査面積合計	23,543.81			

⑼－９　本村遺跡第43地点

調査期間　1995,1,12～1,19　　**面積**　704㎡　　**調査原因**　宅地分譲

調査方法　２ｍ幅のトレンチを４本設定し、バック・ホゥで表土除去した後、人力で精査。

調査結果　縄文時代（土坑１基）、中世～近世（井戸１基、土坑３基、溝１条、柵列）

調査所見　原因者負担による本調査を1995年２月23日から３月29日まで大井町遺跡調査会が実施。

⑼－10　本村遺跡第44地点

調査期間　1995,2,17～2,28　　**面積**　1,198㎡　　**調査原因**　共同住宅建設

調査方法　２ｍ幅のトレンチを７本設定し、バック・ホゥで表土除去した後、人力で精査。

調査結果　縄文時代（土坑３基、おとし穴１基）、中世～近世（井戸１基、土坑１基、ピット）

調査所見　原因者負担による本調査を1995年４月10日から５月25日まで大井町遺跡調査会が実施。

⑽　東台遺跡

砂川堀の右岸、急崖上に立地する町内屈指の縄文集落。標高24～26ｍ。対岸の低地部にある本村遺跡とは７ｍ近い比高差がある。遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期～後期、奈良・平安時代。

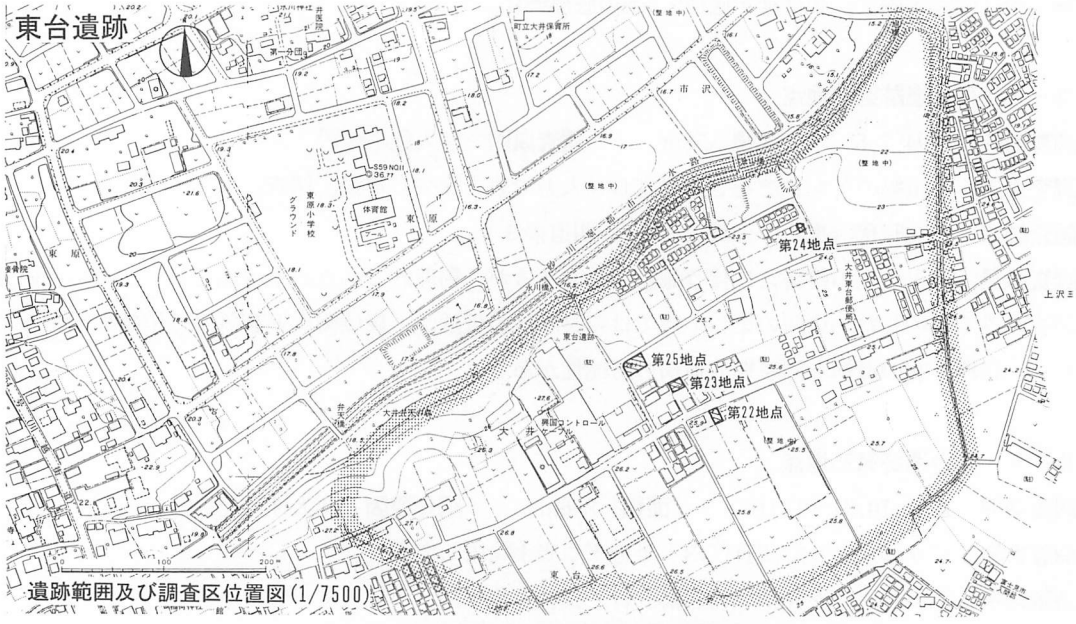
⑽－１　東台遺跡第22地点

調査期間　1994,5,10～5,11　　**面積**　145㎡　　**調査原因**　店舗建設

調査方法　２ｍ幅のトレンチを２本設定し、バック・ホゥで表土除去した後、人力で精査。

調査結果　縄文時代中期（住居跡６軒、土坑１基）

調査所見　原因者負担による本調査を1994年５月30日から７月30日にかけて大井町遺跡調査会が実



第16図　試掘調査位置図及び調査区域図⒀

施。調査区は環状部分の住居密集部分にあたる。

⑽－２　東台遺跡第23地点

調査期間　1994,6,23～6,27　　**面積**　285㎡　　**調査原因**　個人住宅建設

調査方法　調査区内を半分ずつバック・ホゥで表土除去した後、人力で精査。

調査結果　縄文時代（住居跡２軒）

調査所見　個人住宅の建替えに伴う確認調査であるが、確認面が現地表面より80cm下にあり、確認した住居跡も建設予定地の範囲外であったため本調査はせず、将来開発する場合には発掘調査を実施する旨の確約書を提出してもらった。

【出土遺物】　大半が縄文土器破片である。１～５は阿玉台II式土器。１は口縁部破片で、竹管による平行押し引き文。２は胴部への爪形文。３は隆帯上が押圧される。４は隆帯脇に雑な角押文。５は隆帯脇に平行沈線。６～12は勝坂式土器。６は口縁部破片で幅広角押文。７は隆帯脇を幅広角押文で押さえる。８は隆帯脇に連続爪形文と三角押文。６～８は勝坂１。９・10は連続爪形文と波状沈線で勝坂２。11・12は隆帯脇を単沈線で押さえるもので勝坂３。12は区画内にLR縄文が施文され、把手が付くが欠けている。

13～26は加曾利Ｅ式土器。13・14は口縁部文様帯が隆帯と沈線で区画される加曾利ＥII式。15・16は磨消縄文の口縁部で、RLの縄文部分は逆Ｕ地型に沈線で囲われる加曾利ＥIII式。17は無節縄文。18・19はLR縄文。20は粗いLR縄文に沈線の文様が入る。21はLR縄文に沈線の懸垂文、22・23はRLの磨消縄文で加曾利ＥII式。24～26は幅広のLR磨消縄文で加曾利ＥIIIかIV式。25・26は区画がカーブする。27は撚糸文。28は沈線の懸垂。29～33は条線地文で、29は口縁部。30は半截竹管で連弧文が描かれる。31は沈線の懸垂。34は波状口縁で下に列点文が巡る。35～37は無文の口縁部。38・39は微隆起線文。40は推定底径9.5cmの底部破片。

⑽－３　東台遺跡第24地点

調査期間　1994,7,6　　**面積**　58㎡　　**調査原因**　個人住宅建設

調査方法　２m幅のトレンチを２本設定し、人力で表土除去した後、精査。

調査結果　縄文時代（集石、土坑）、時期不明遺構３基。

調査所見　個人住宅の建替えに伴う確認調査であるが、物理的に調査が不可能であったため、確認調査のみで終了した。東隣の第18地点では奈良時代の製鉄炉、炭焼窯など製鉄関連遺構を検出しており、時期不明の遺構も同時期の遺構の可能性がある。

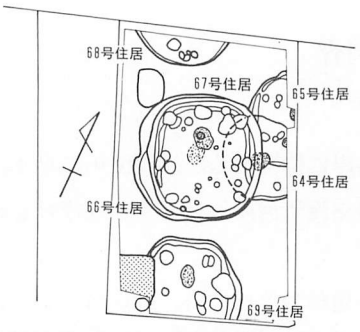
⑽－４　東台遺跡第25地点

調査期間　1994,10,31～12,16　　**面積**　296㎡　　**調査原因**　個人住宅建設

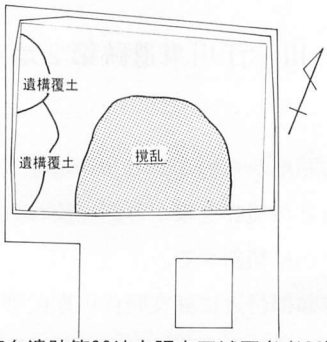
調査方法　バック・ホゥで調査区内を半分ずつ表土除去して調査。

調査結果　縄文時代中～後期（住居跡６軒、袋状土坑１基、土坑11基、ピット群）

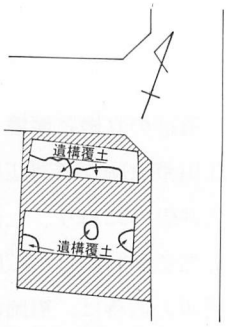
調査所見　大井町教育委員会で本調査を実施。後述。



東台遺跡第22地点遺構配置図(1/400)



東台遺跡第23地点調査区域図(1/400)

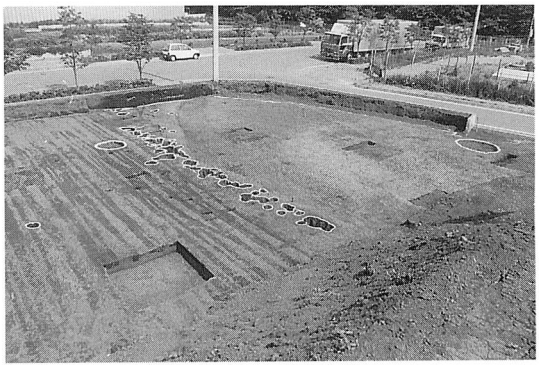


第24地点調査区域図(1/400)

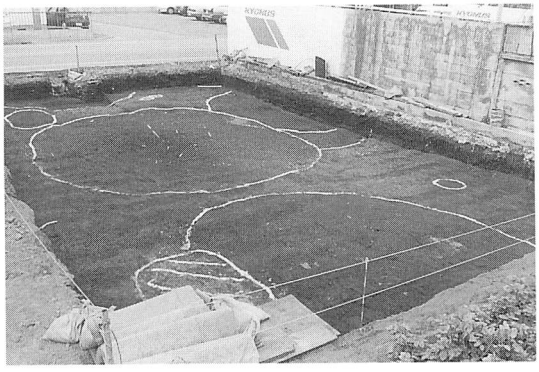
東台遺跡第23地点出土遺物(1/3)

第17図　試掘調査位置図及び調査区域図(14)

本村遺跡第44地点　試掘

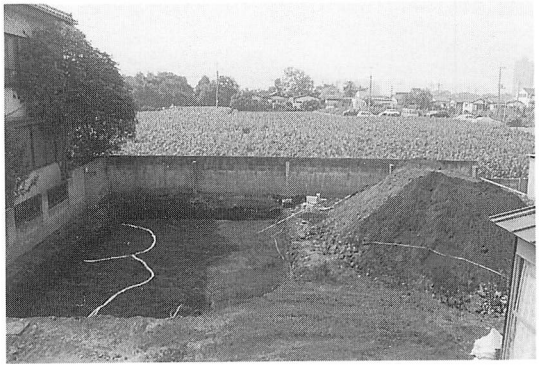


本村遺跡第44地点　本調査

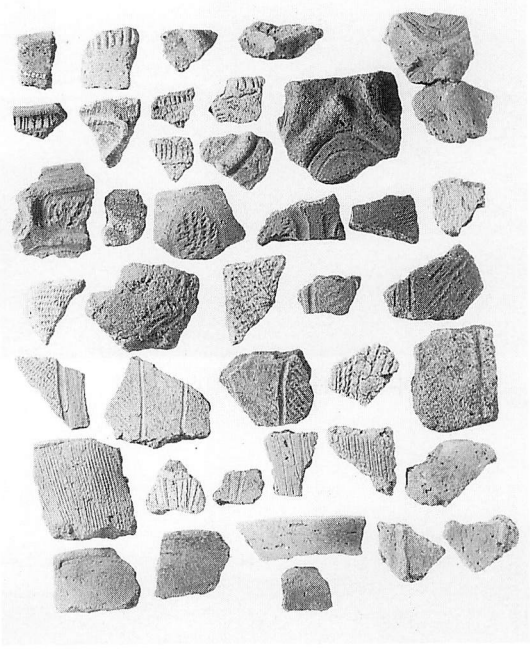


東台遺跡第22地点　プラン

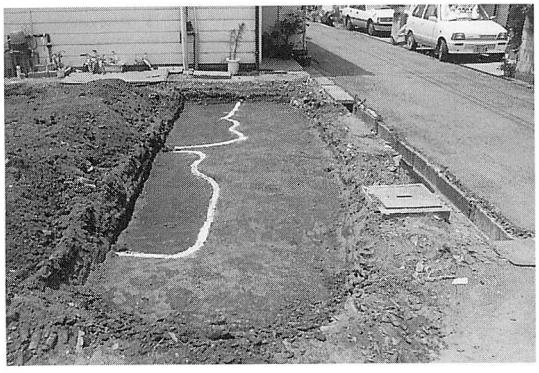
東台遺跡第22地点　全景



東台遺跡第23地点



東台遺跡第23地点　出土遺物



東台遺跡第 24 地点

東台遺跡第22・26地点

東台遺跡第22地点全景（南から）

東台遺跡第26地点東側（南から）

凡　　例

1．本書の遺構挿図の指示は以下のとおりである。

（1）縮尺はその都度図中に示している。

（2）遺構断面図の水糸高は海抜を示す。

（3）遺構図におけるscreen-toneの指示、遺物出土状況のドットの指示。

地山　　攪乱　　礫層　　焼土

×　石器　　o　礫　　・　土器

2．住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3．住居跡内ピット一覧表の（　）は推定値である。

4．本書の遺物挿図の指示は以下のとおりである。

（1）遺物番号は地点ごとに1からはじまる。

（2）砥石実測図の断面における矢印の表示は、実践が砥面を、一点鎖線が加工痕の残存面を表す。

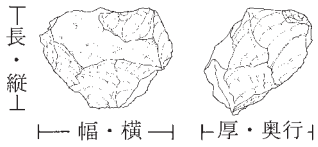
（3）遺物実測図におけるscreen-toneの指示。

石器節理面　　石器・陶磁器・石製品磨面、磨ガラス面

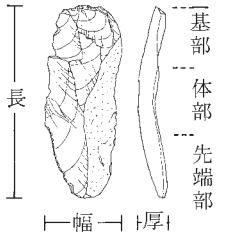
（4）出土遺物観察表に記載した計測部位及び遺存部位は以下のとおりである。

〈石核〉

最終剥離面を正面とする。



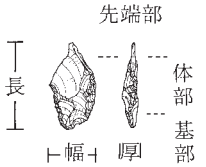
〈剥片・その他の剥片石器およびRF〉



遺存部位
A. 基部+体部+先端部
B1. 基部＋体部
B2. 体部＋先端部
C1. 基部
C2. 体部
C3. 先端部
D. 縦割れ
E. その他・不明

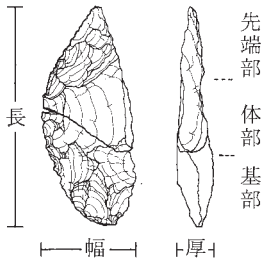
〈ナイフ形石器/尖頭器〉

ナイフ形石器

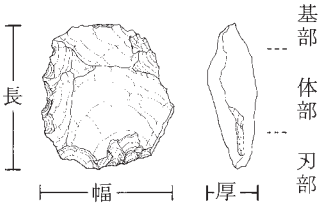


遺存部位
A. 基部+体部+先端部
B1. 基部＋体部
B2. 体部＋先端部
C1. 基部
C2. 体部
C3. 先端部
D. 縦割れ
E. その他・不明

尖頭器



〈スクレイパー(石匙を含む)〉



遺存部位
A. 基部+体部+刃部
B1. 基部＋体部
B2. 体部＋刃部
C1. 基部
C2. 体部
C3. 刃部
D. 縦割れ
E. その他・不明

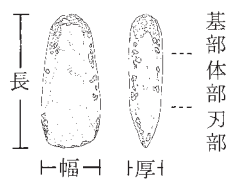
〈石鏃〉

素材剥片の背面を上面とする。

遺存部位
A. 先端部＋体部＋両脚
B. 先端部＋体部＋片脚
C1. 先端部＋体部
C2. 両脚＋体部
C3. 片脚＋体部
D1. 先端部
D2. 体部
D3. 両脚
D4. 片脚
E. 縦割れ
F. その他・不明

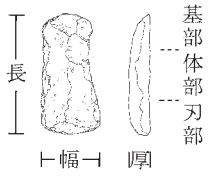
〈磨製石斧/打製石斧〉

磨製石斧



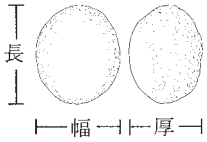
遺存部位
A. 基部+体部+刃部
B1. 基部＋体部
B2. 体部＋刃部
C1. 基部
C2. 体部
C3. 刃部
D. 縦割れ
E. その他・不明

打製石斧

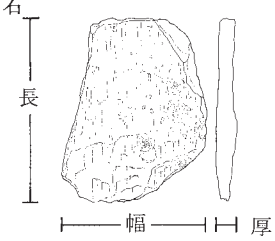


〈磨石/凹石〉

磨石

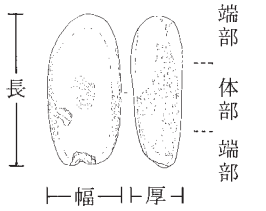


凹石



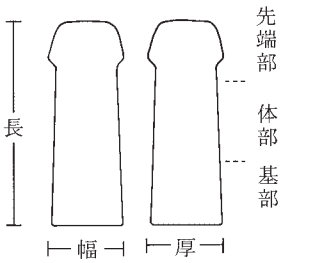
遺存部位
A. 完形
B. 残存率　3/4～
C. 残存率　1/2～3/4
D. 残存率　1/4～1/2
E. 残存率　1/4以下

〈敲石/石錘〉



遺存部位
A. 端部＋体部＋端部
B. 端部＋体部
C1. 端部
C2. 体部
D. 縦割れ
E. その他・不明

〈石棒〉



遺存部位
A. 先端部+体部+基部
B1. 先端部＋体部
B2. 体部＋基部
C1. 先端部
C2. 体部
C3. 基部
D. 縦割れ
E. その他・不明

Ⅲ　東台遺跡の調査

1　遺跡の立地と環境（第82図）

東台遺跡は東武東上線ふじみ野駅の南約１㎞、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に向って流れ新河岸川に合流する。標高は24～26ｍで、砂川堀との比高差は５ｍで急崖をなし、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

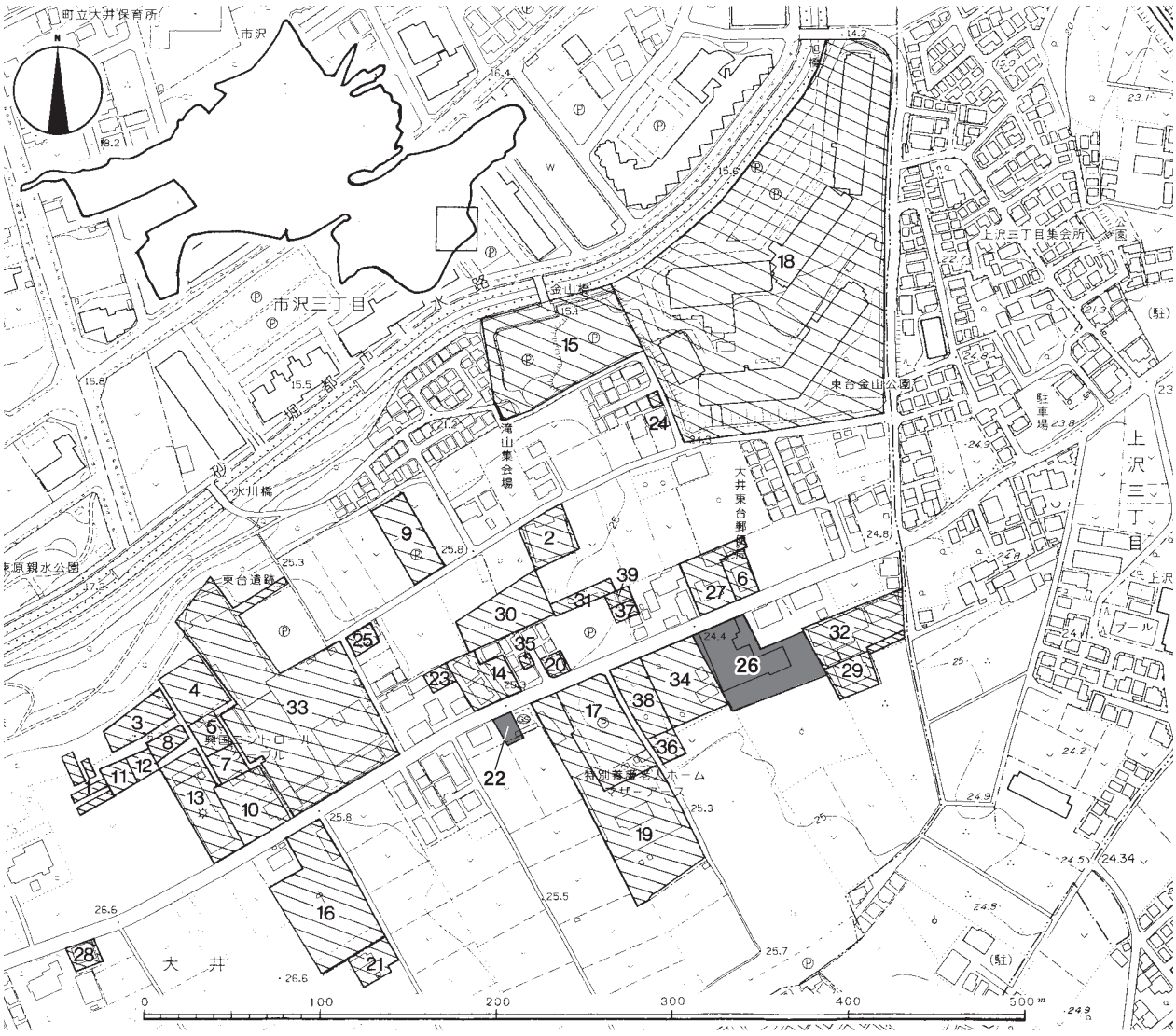
遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700ｍ、南北250ｍ、遺跡面積約170,000㎡、町内で最大の遺跡であり、約17％の30,000㎡を調査している。

旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにナイフ形石器を伴う礫群が分布する。今のところAT層以下で石器の検出はない。

縄文時代の調査では早期１軒、中期140軒、後期６軒、時期不明８軒の住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている（2004年６月現在）。特に中期の住居跡は複数の環状に配置する集落があり、武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で８世紀後半の製鉄炉や炭焼き窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50ｍに大井戸上遺跡、西約300ｍに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また、砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代～近世の本村遺跡が位置する。今後、旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡との関係が注目される。



第82図　東台遺跡の地形と調査区（1/4,000）

2　東台遺跡第22地点

（1）調査の概要

本地点は、東台遺跡の中央部に位置し、東側がガソリンスタンドを挟んで第19地点に、北側が道路を挟んで第14地点に面している。調査は店舗建設に伴うもので、原因者から1994年1月28日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。そして申請地が遺跡範囲内に位置するため町教育委員会によって試掘調査が行われた。

試掘調査は、幅2ｍのトレンチを2本設定し、5月10・11日に重機による表土除去・人力による精査が行われた。その結果、縄文時代中期の住居跡・土坑が確認されたため、大井町遺跡調査会が主体となって5月30日から7月30日にかけて本調査が実施された。

（2）遺構と遺物（第83～99図、第61～71表、巻頭図版4・8、図版36～39）

遺構は縄文時代中期の住居跡6軒、土坑1基を検出し、環状部分の住居密集部にあたることが判明した。出土遺物は、縄文時代の土器・石器・礫などが主体である。その他の時代の遺物としては、金属製品の煙管雁首が出土している。

本地点はローム上面まで耕作されているため、縄文時代の遺物包含層はほとんど残っていなかった。そのためローム上面で遺構確認を行った。

本地点は前述のとおり、遺跡の中央部分にあたり住居跡の重複が激しい。今回検出された住居跡6軒中、64号・65号・66号・67号住居跡の4軒が重複している。新旧関係は古い順に65号、67号、66号、64号となっており、以下住居跡の特徴については番号順に述べる。

64号は本地点の東側に位置し、住居跡の東側隅は調査区外のため未調査である。65号・66号・67号と重複しているが、最も新しい住居である。平面形は南北に長い楕円形で長軸は453㎝を測り、確認面からの深さは遺存状態が良好な部分で22㎝である。66号・67号の覆土の上に構築しているため、住居跡の西側は10～15㎝ほど床面が沈んでおり、周溝は検出されなかった。炉は石囲炉で住居のほぼ中央につくられており、北側半分の炉石が残存していた。遺物は覆土から胴部に矢羽状沈線を施されているキャリパー形深鉢や打製石斧が出土している。住居跡の時期は、住居形態から加曾利ＥⅡ期と考えられる。

65号は本地点の北東側に位置し、住居跡の南側は64号に切られており東側は調査区外で未調査である。64号・67号と重複しているが、最も古い住居である。平面形は不明で、確認面からの深さは遺存状態が良好な部分で22㎝である。一部周溝が検出されている。炉は大部分が調査区外なので形態は不明であるが、焼土に重なるような状態で人頭大の礫が検出されており、未発掘部分の状況が注目される。遺物は炉付近の覆土中から有孔鍔付土器（1）が検出されている。住居跡の時期は加曾利ＥⅠ古期と考えられる（大井町教育委員会2003）。

66号は本地点のほぼ中央に位置し、住居跡東側隅は64号に切られている。また床面は67号の覆土を掘り込んで構築されている。平面形は推定で南北に長い楕円形を呈すると思われ、長軸668㎝、短軸560㎝を測る。確認面からの深さは48㎝程度と考えられ、住居跡の南西部分で周溝が検出されている。炉は南北に長い楕円形の石囲炉で、遺存状態は良好である。埋甕は住居跡南側の壁際で確認され、堀り方の平面形ははっきりしないが正位で出土した。埋甕に使用された土器（2）は頸部に無文帯をもつキャリパー形の深鉢である。住居跡の時期は埋甕の土器型式から加曾利ＥⅠ新期であろう。

67号は本地点の中央に位置し、ほぼ66号と重なっている。64号・66号に切られ、65号を切っている。平面形は隅丸方形を呈し長軸667㎝、短軸590㎝を測り、確認面からの深さは72㎝である。周溝は壁際を全周しており2重になって検出されているため、建替えが行われたものと考えられる。炉は平面形瓢箪形の埋甕炉で、住居跡の主軸線上北よりに位置している。炉体土器は頸部下半部分より下を欠損している。頸部上半に無文帯がみられるが、口縁部に貼付隆帯による横Ｓ字文様をもつため加曾利ＥⅠ新式の中でも古相を示す土器である。住居跡の時期は炉体土器から加曾利ＥⅠ新期と考えられる。

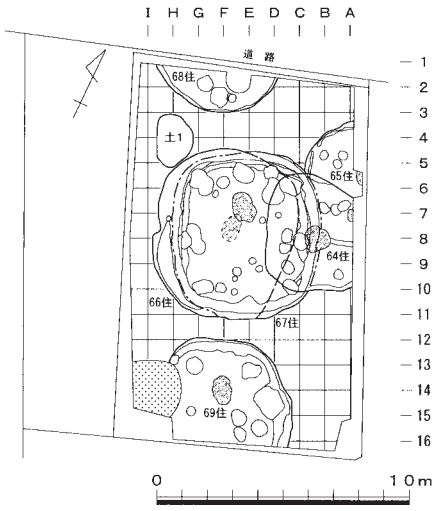
68号は本地点の北側に位置し、住居跡との重複はみられない。しかし、住居の北側半分以上が調査区外になるため全貌は不明である。確認面からの深さは遺存状態の良好な部分で47㎝を測り、床面から周溝は検出されなかった。住居の時期は不明である。

69号は本地点の南側に位置し、住居跡との重複はみられない。住居の西と南側が調査区外になるため平面形は不明である。確認面からの深さは遺存状態の良好な部分で50㎝を測り、調査範囲内では周溝が全周して

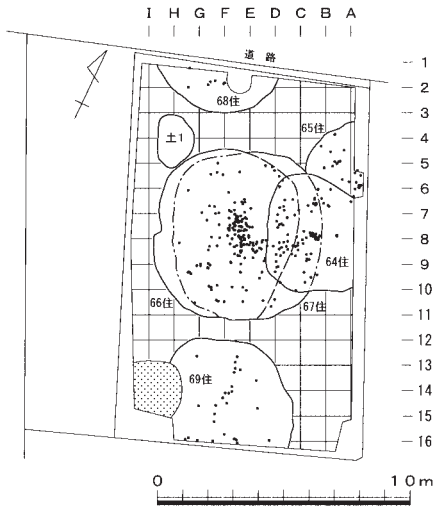
いる。炉は楕円形の石囲炉で、おそらく住居跡の主軸線上北よりに位置している。炉石は北側の2点以外は抜き取られた可能性がある。住居跡の時期は周溝を伴い、炉の形態が石囲炉であることから、古・新の判断はできないが加曾利ＥⅠ期と考えられる（大井町遺跡調査会1996）。

以上のように本地点は加曾利ＥⅠ期と加曾利ＥⅡ期の集落範囲の一部であることがわかった。しかし、本遺跡はいまだ未調査の部分が多いため、集落の変遷がどのような様相を示すかは今後も課題である。

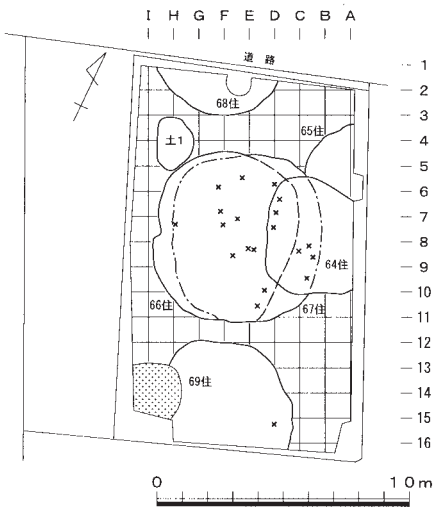
（花岡秀雄）



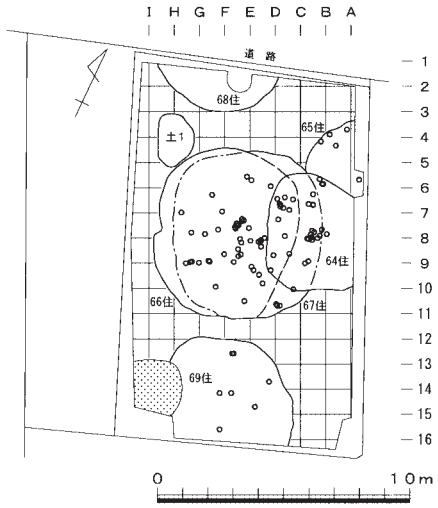
第83図　東台遺跡第22地点遺構配置図（1/300）



第84図　東台遺跡第22地点縄文土器出土分布図(1/300)



第85図　東台遺跡第22地点縄文石器出土分布図(1/300)



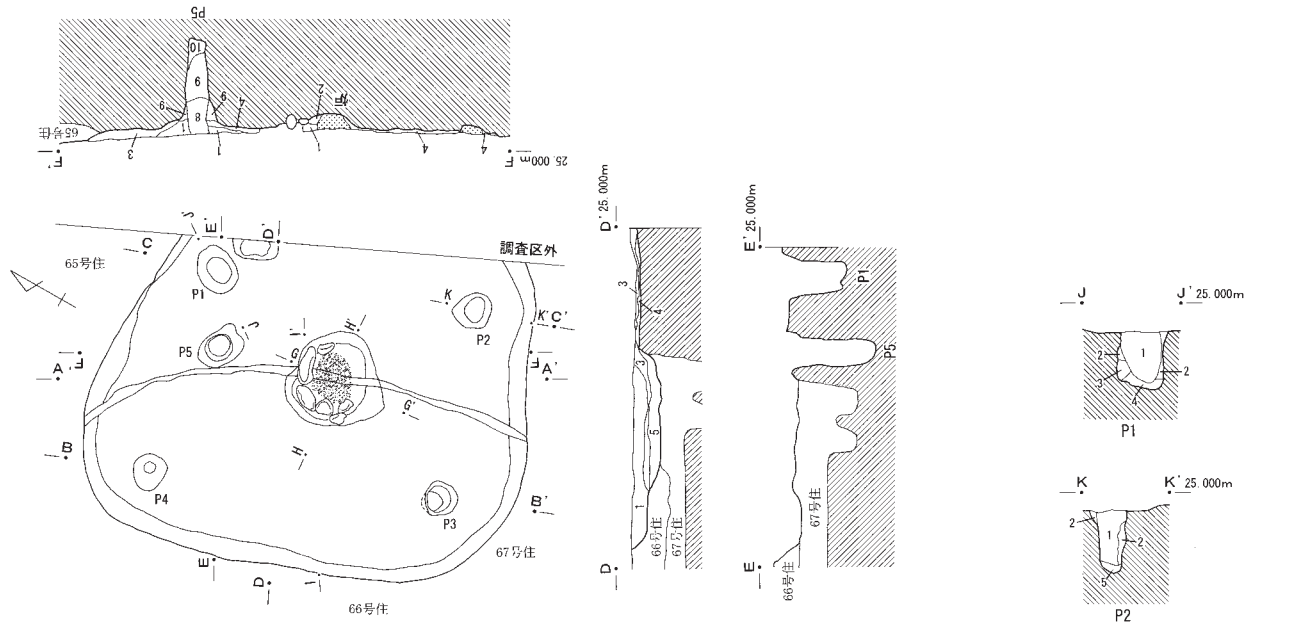
第86図　東台遺跡第22地点礫出土分布図（1/300）

第61表　東台遺跡第22地点住居跡一覧表

単位はcm，（　）は推定値，備考欄の写番号は写真図版番号

図版番号	住居No.	平面形	規模 長軸×短軸×深さ	炉 地床	炉 炉体	炉 石囲	埋甕	周溝	ピット数	貼床	備考
87	64号住居跡	(楕円形)	453×(408)×22			○	×	×	5	○	66住・67住を埋めてその上に貼床している。65住を切る/写20
88	65号住居跡	不明	502×不明×22	○			×	○	4	×	覆土中から有孔鍔付土器。64住・67住に切られる/写20・21
89	66号住居跡	(楕円形)	(668×560)×48			○	○	○	7	×	埋甕は加曾利ＥⅠ新式。64住に切られ、67住を切る/写21
90	67号住居跡	隅丸方形	667×590×72		○		×	○	22	×	炉体土器は加曾利ＥⅠ新式。64住・66住に切られ、65住を切る/写21・22
91	68号住居跡	不明	不明×不明×47	—	—	—	不明	×	3	×	調査区外へ延びる/写22
92	69号住居跡	不明	不明×不明×50			○	不明	○	6	×	炉の周辺で礫が2点検出されているので石囲炉の可能性あり。調査区外へ延びる/写22・23

64号住居跡



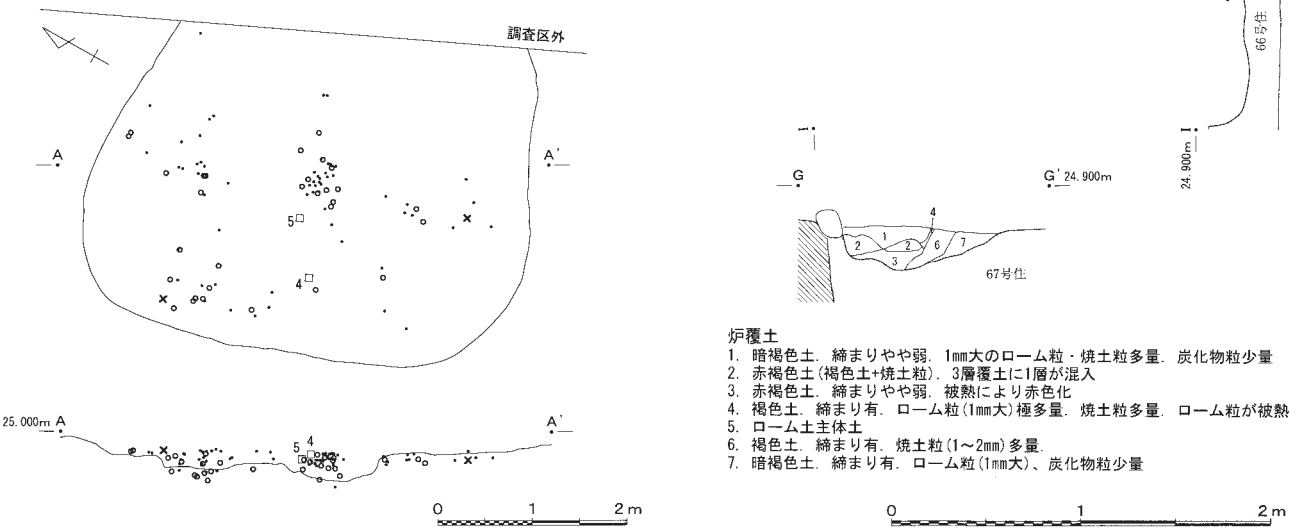
ピット覆土
1. 暗褐色土．締まり有．ローム粒(1mm大)多量．炭化物粒(1mm大)少量
2. 褐色土．締まりやや弱．ローム粒(0.1mm大)主体層．ローム粒(1mm大)多量
3. 褐色土．締まり無．ローム粒主体層
4. 褐色土．硬く締まる．ローム塊(20mm大)多量
5. 褐色土．硬く締まる．ローム塊少量

第62表　東台遺跡第22地点64号住居跡内ピット一覧表

No.	形態	確認面径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	備　考
1	楕円形	50×40	30×22	62	縄文土器。
2	不整円形	40×36	26×20	65	縄文土器。
3	円　形	36×34	24×20	72	縄文土器。
4	楕円形	39×35	12×11	74	
5	楕円形	49×34	24×21	79	65号住のピットか？

64号住居跡覆土
1. 黒褐色土．締まり有．ローム粒少量．炭化物粒少量
2. 暗褐色土．締まり有．ローム粒少量．焼土粒やや多量
3. 暗褐色土．硬く締まる．ローム粒多量．ローム塊少量
4. 褐色土．硬く締まる．ローム塊多量
5. 褐色土．硬く締まる．ローム塊多量．貼床
6. 暗褐色土．締まり有．ローム粒(1～2mm)少量．焼土粒・炭化物粒極少量．P3･4覆土
7. 褐色土．締まり無．ローム塊(20mm)少量．P4覆土
8. 暗褐色土．締まり無．ローム粒(1mm大)少量．P5覆土
9. 暗褐色土．8層と類似するが、締まり有．P5覆土
10. 褐色土．硬く締まる．ローム塊多量．P5覆土

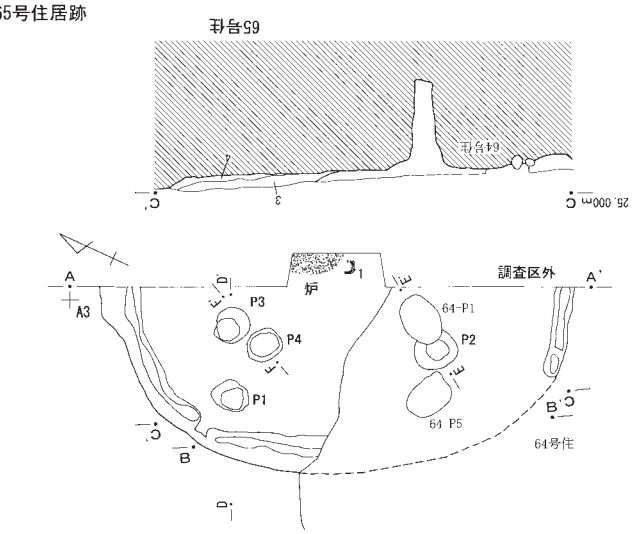
炉



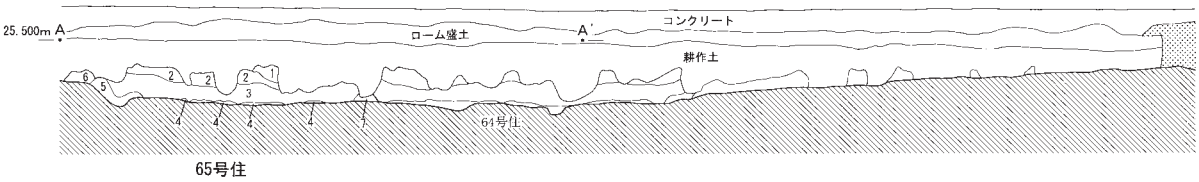
炉覆土
1. 暗褐色土．締まりやや弱．1mm大のローム粒・焼土粒多量．炭化物粒少量
2. 赤褐色土(褐色土+焼土粒)．3層覆土に1層が混入
3. 赤褐色土．締まりやや弱．被熱により赤色化
4. 褐色土．締まり有．ローム粒(1mm大)極多量．焼土粒多量．ローム粒が被熱
5. ローム土主体土
6. 褐色土．締まり有．焼土粒(1～2mm)多量．
7. 暗褐色土．締まり有．ローム粒(1mm大)、炭化物粒少量

第87図　東台遺跡第22地点64号住居跡（1/80）・炉（1/40）

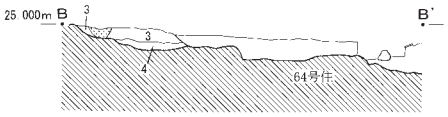
65号住居跡



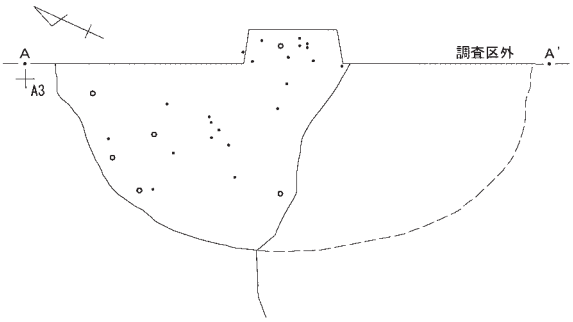
65号住居跡覆土
1. 黒褐色土．締まり有．色調は暗い
2. 暗褐色土．締まり有．ローム粒(1mm大)少量．焼土粒、炭化物粒極少量
3. 暗褐色土．硬く締まる．ローム粒(10mm大)を斑状に少量．色調はやや明るい
4. 褐色土+ローム塊．硬く締まる．貼床
5. 褐色土．締まり有．ローム粒（1mm大)少量．ソフトローム塊含む
6. 暗褐色土．締まり有．含有物はほとんど含まない．色調は暗い
7. 褐色土．締まり有．ローム粒(1mm大)、ローム塊(10mm大)多量

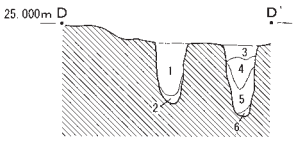


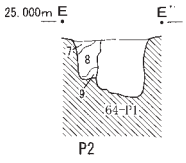
65号住

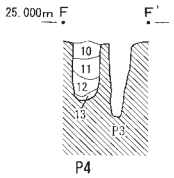


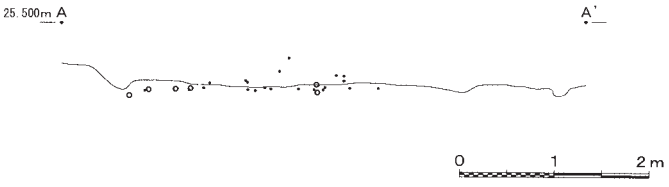
65号住



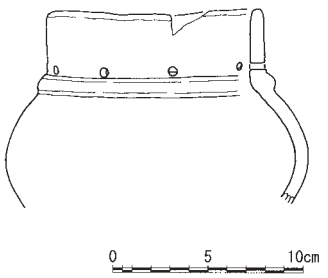








ピット覆土
1. 暗褐色土．締まりやや弱．ローム粒(1mm大)、ローム塊少量
2. 褐色土．締まり有．ローム塊多量
3. 暗褐色土．締まりやや強．
ローム粒多量．ソフトローム塊少量．色調はやや明るい
4. 暗褐色土．3層と類似するが、締まりがやや弱い
5. 暗褐色土．締まりやや弱．ローム粒少量
6. 褐色土．硬く締まる．ローム塊多量
7. 褐色土．締まり有．ローム塊多量
8. 褐色土．締まり有．ローム粒、焼土粒少量
9. 褐色土．硬く締まる．褐色ローム粒主体層．ローム塊少量
10. 褐色土．硬く締まる．
ローム粒多量．炭化物粒少量．色調はやや暗い
11. 黄褐色土．硬く締まる．ローム粒主体層．褐色土粒含む
12. 褐色土+ソフトローム粒．締まり無．ローム塊多量
13. 褐色土．硬く締まる．ローム粒多量．突き固められる

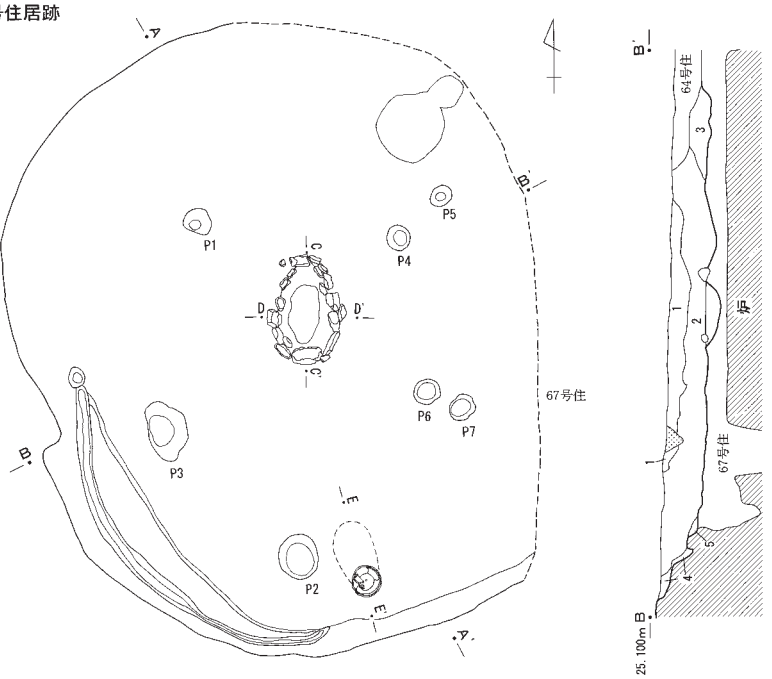


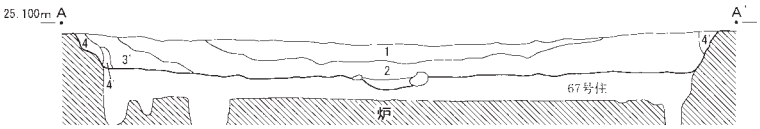
第63表 東台遺跡第22地点65号住居跡内ピット一覧表

No.	形態	確認面径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	備　考
1	不整円形	40×29	24×23	64	縄文土器。
2	(楕円形)	45×(40)	23×(21)	41	縄文土器。
3	不整円形	39×34	24×24	75	縄文土器。
4	楕円形	38×33	32×23	62	縄文土器。

第88図　東台遺跡第22地点65号住居跡（1/80）・縄文土器（1/4）

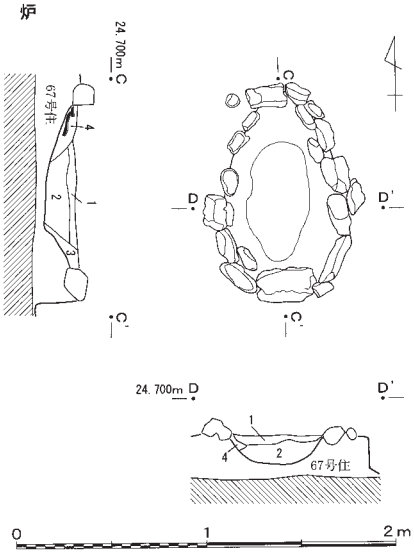
66号住居跡





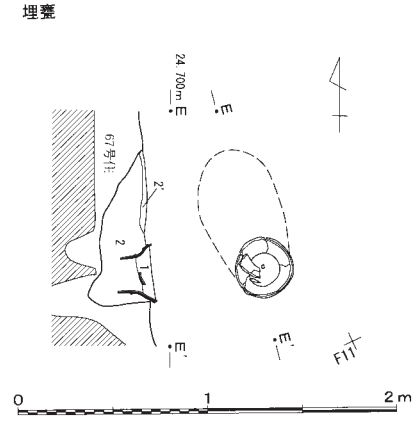
66号住居跡覆土
1. 黒褐色土．締まり有．ローム粒(1mm大)、焼土粒、炭化物粒少量．色調は暗い
2. 暗褐色土．締まり有．ローム粒(1mm大)多量
3. 暗褐色土．締まり有．2層と類似するが、ローム粒の含有量がやや多い
3'. 暗褐色土．硬く締まる．2層より色調は明るい
4. 褐色土．硬く締まる．ローム塊多量
4'. 褐色土．硬く締まる．ローム粒(1mm大)極多量
5. 暗褐色土．締まり有．ローム粒(1～2mm)極多量．ローム塊(20～30mm)やや多量

炉

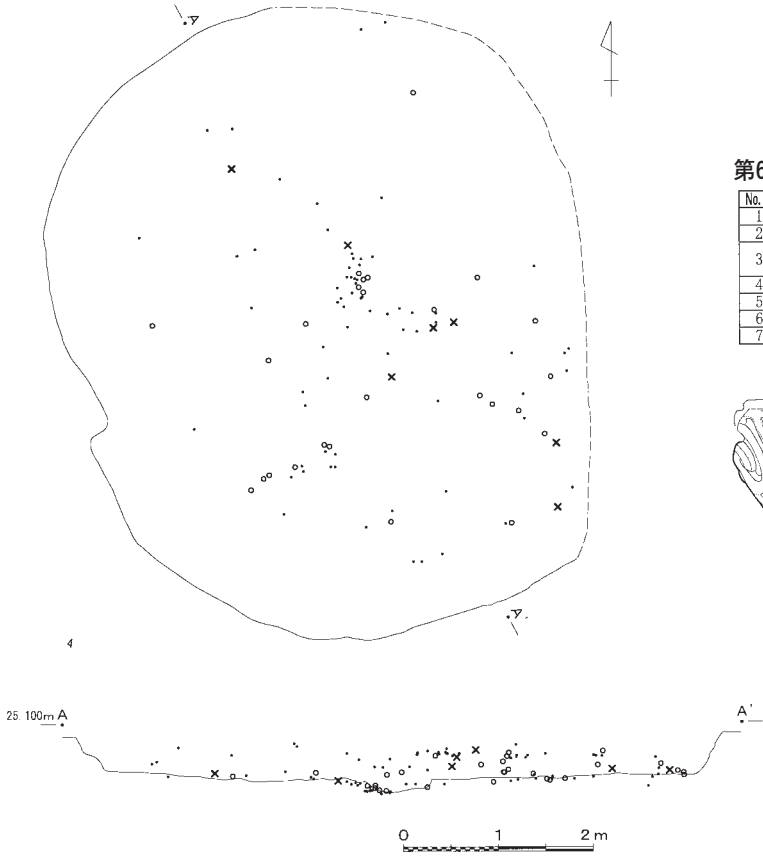


炉覆土
1. 黒褐色土+焼土塊(軟質)．締まり有
2. 焼土層．締まりはあるが軟質
3. 暗褐色土．締まり有．焼土粒極多量
4. 暗褐色土．締まり有．焼土粒少量

埋甕

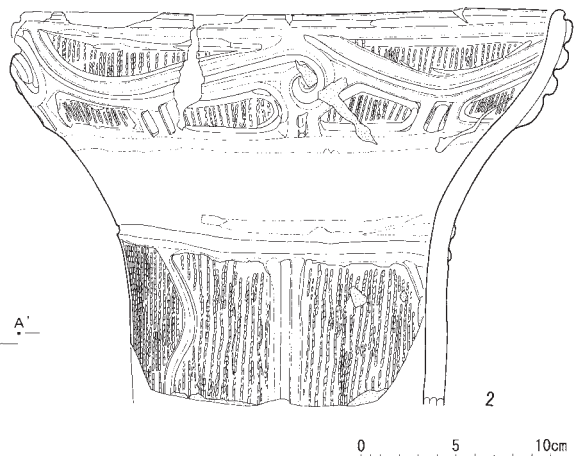


埋甕覆土
1. 黒褐色土．締まり有．
2. 暗褐色土．硬く締まる．ローム粒(1mm大)極多量．炭化物粒少量
2'. 貼床



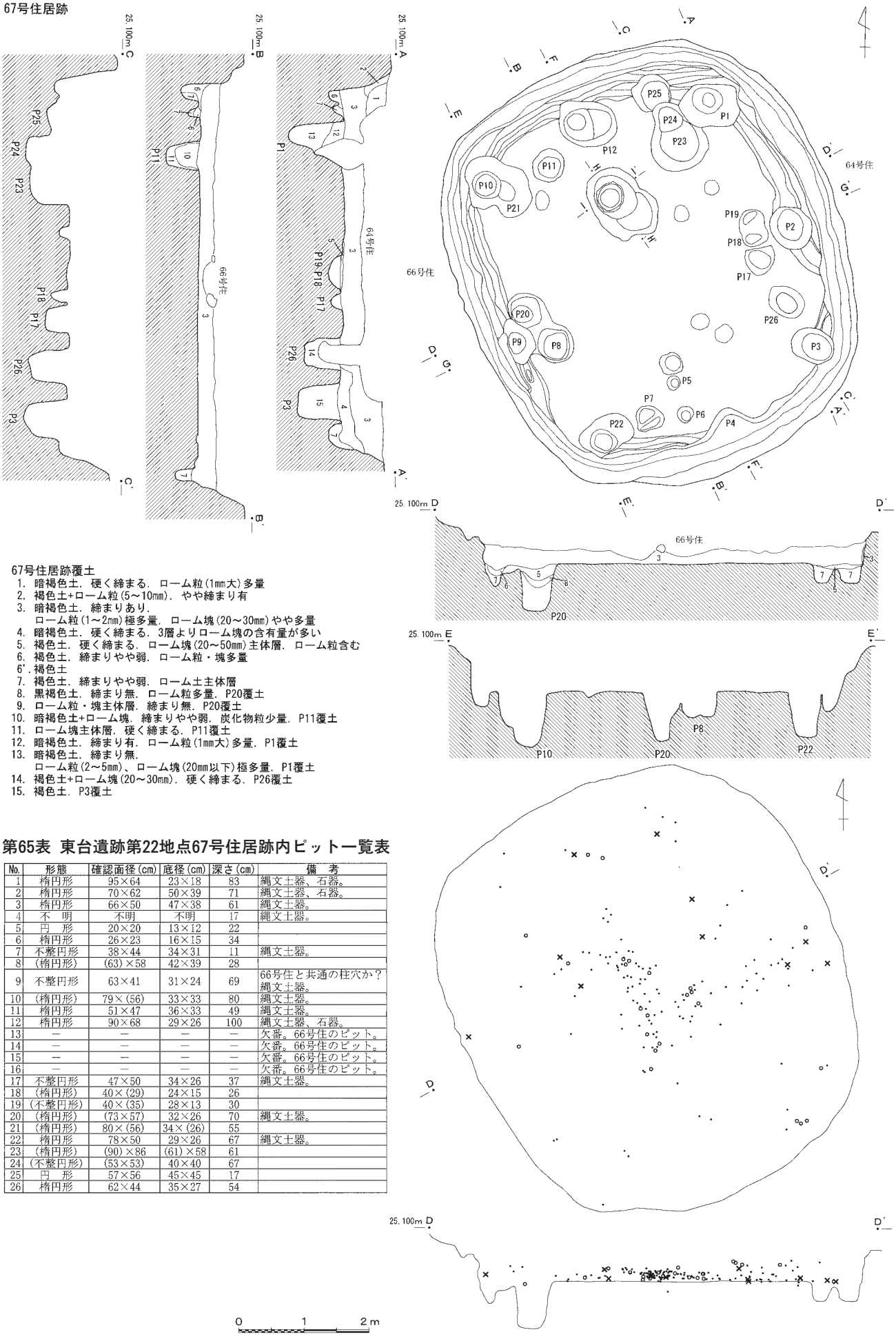
第64表　東台遺跡第22地点66号住居跡内ピット一覧表

No.	形態	確認面径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	備　考
1	不整円形	30×26	12×10	59	縄文土器。
2	楕円形	48×40	34×26	97	縄文土器。
3	不整円形	63×41	31×24	69	67号住と共通の柱穴か？ 縄文土器。
4	円　形	25×24	16×13	43	
5	楕円形	23×20	11× 9	16	
6	楕円形	29×25	21×18	34	縄文土器。
7	楕円形	27×25	23×17	27	



第89図　東台遺跡第22地点66号住居跡（1/80）・炉・埋甕（1/40）・埋甕（1/4）

67号住居跡



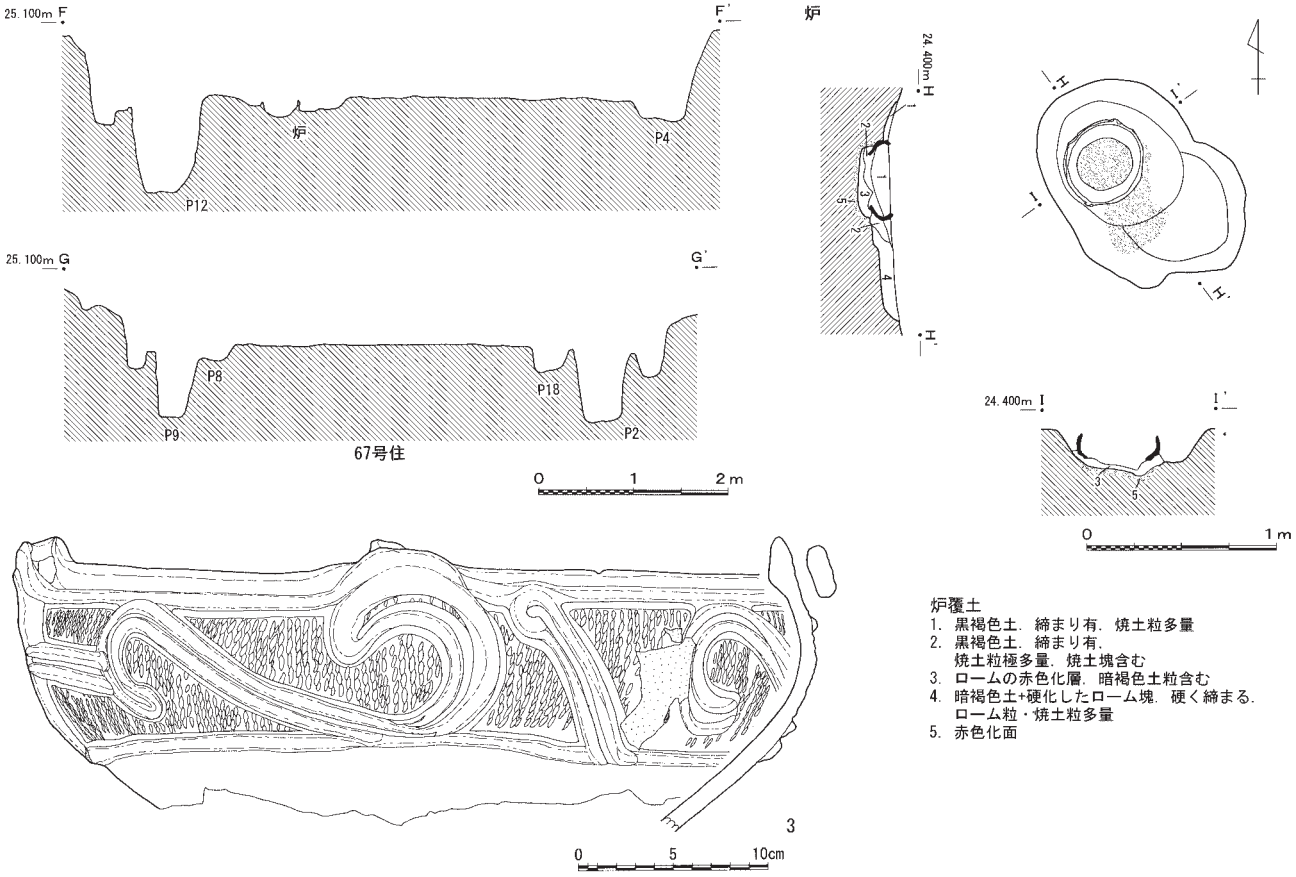
67号住居跡覆土

1. 暗褐色土．硬く締まる．ローム粒(1mm大)多量
2. 褐色土+ローム粒(5～10mm)．やや締まり有
3. 暗褐色土．締まりあり．
   ローム粒(1～2mm)極多量．ローム塊(20～30mm)やや多量
4. 暗褐色土．硬く締まる．3層よりローム塊の含有量が多い
5. 褐色土．硬く締まる．ローム塊(20～50mm)主体層．ローム粒含む
6. 褐色土．締まりやや弱．ローム粒・塊多量
6'. 褐色土
7. 褐色土．締まりやや弱．ローム土主体層
8. 黒褐色土．締まり無．ローム粒多量．P20覆土
9. ローム粒・塊主体層．締まり無．P20覆土
10. 暗褐色土+ローム塊．締まりやや弱．炭化物粒少量．P11覆土
11. ローム塊主体層．硬く締まる．P11覆土
12. 暗褐色土．締まり有．ローム粒(1mm大)多量．P1覆土
13. 暗褐色土．締まり無．
   ローム粒(2～5mm)、ローム塊(20mm以下)極多量．P1覆土
14. 褐色土+ローム塊(20～30mm)．硬く締まる．P26覆土
15. 褐色土．P3覆土

第65表 東台遺跡第22地点67号住居跡内ピット一覧表

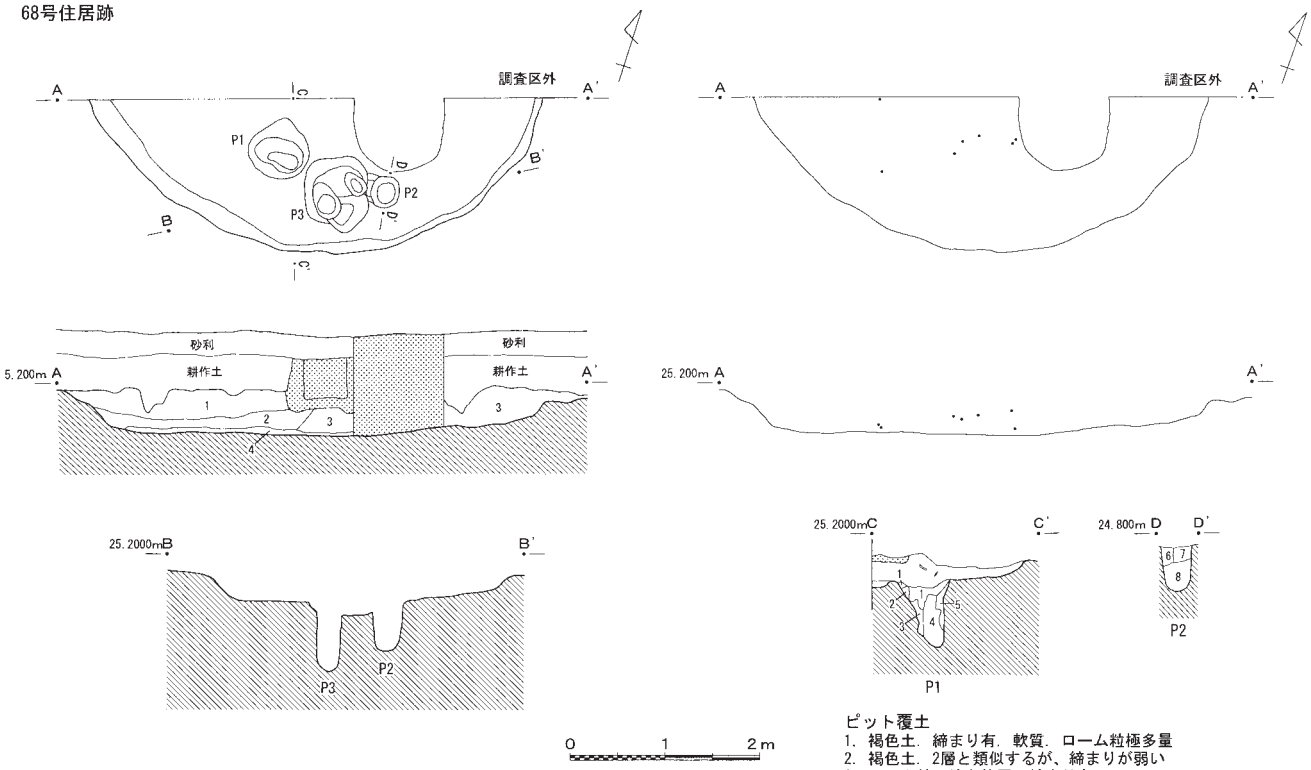
No.	形態	確認面径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	備　考
1	楕円形	95×64	23×18	83	縄文土器、石器。
2	楕円形	70×62	50×39	71	縄文土器、石器。
3	楕円形	66×50	47×38	61	縄文土器。
4	不　明	不明	不明	17	縄文土器。
5	円　形	20×20	13×12	22	
6	楕円形	26×23	16×15	34	
7	不整円形	38×44	34×31	11	縄文土器。
8	(楕円形)	(63)×58	42×39	28	
9	不整円形	63×41	31×24	69	66号住と共通の柱穴か？ 縄文土器。
10	(楕円形)	79×(56)	33×33	80	縄文土器。
11	楕円形	51×47	36×33	49	縄文土器。
12	楕円形	90×68	29×26	100	縄文土器、石器。
13	—	—	—	—	欠番。66号住のピット。
14	—	—	—	—	欠番。66号住のピット。
15	—	—	—	—	欠番。66号住のピット。
16	—	—	—	—	欠番。66号住のピット。
17	不整円形	47×50	34×26	37	縄文土器。
18	(楕円形)	40×(29)	24×15	26	
19	(不整円形)	40×(35)	28×13	30	
20	(楕円形)	(73×57)	32×26	70	縄文土器。
21	(楕円形)	80×(56)	34×(26)	55	
22	楕円形	78×50	29×26	67	縄文土器。
23	(楕円形)	(90)×86	(61)×58	61	
24	(不整円形)	(53×53)	40×40	67	
25	円　形	57×56	45×45	17	
26	楕円形	62×44	35×27	54	

第90図　東台遺跡第22地点67号住居跡（1/80）



炉覆土
1. 黒褐色土．締まり有．焼土粒多量
2. 黒褐色土．締まり有．
　焼土粒極多量．焼土塊含む
3. ロームの赤色化層．暗褐色土粒含む
4. 暗褐色土+硬化したローム塊．硬く締まる．
　ローム粒・焼土粒多量
5. 赤色化面

68号住居跡



68号住居跡覆土
1. 黒褐色土．硬く締まる．ローム粒、焼土粒少量．土器多量出土
2. 暗褐色土．締まり有．ローム粒(1mm大)多量．炭化物粒少量
3. 暗褐色土．締まり有．2層よりローム粒の含有量が少なく、小さい．炭化物粒少量
4. 褐色土．硬く締まる．ローム粒・塊多量

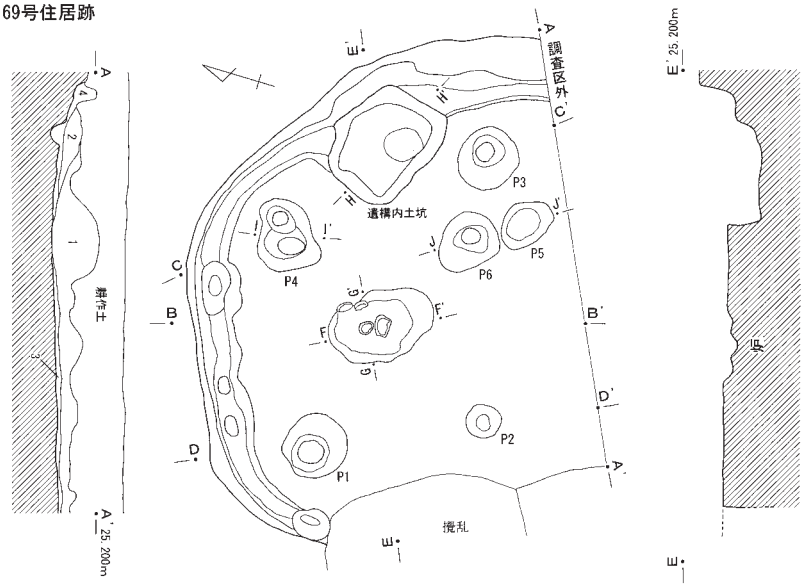
ピット覆土
1. 褐色土．締まり有．軟質．ローム粒極多量
2. 褐色土．2層と類似するが、締まりが弱い
3. ローム粒・塊主体層．締まり有
4. 暗褐色土．締まり有．軟質．ローム粒(1mm大)少量．
　色調は1層より明るい
5. 褐色土．締まりやや弱．4層にローム粒が極多量含む
6. 褐色土．締まり有．ローム粒主体層．ローム塊少量
7. 暗褐色土．締まり有．ローム粒(1mm大)多量
8. 暗褐色土．締まりやや弱．ローム粒(1mm大)多量

第66表 東台遺跡第22地点68号住居跡内ピット一覧表

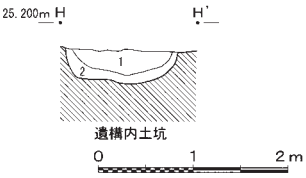
No.	形態	確認面径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	備　考
1	楕円形	64×60	33×14	68	縄文上器。
2	楕円形	33×30	22×19	47	
3	楕円形	40×25	20×20	61	

第91図　東台遺跡第22地点67号住居跡（1/80）・炉（1/40）・炉体土器（1/4）、68号住居跡（1/80）

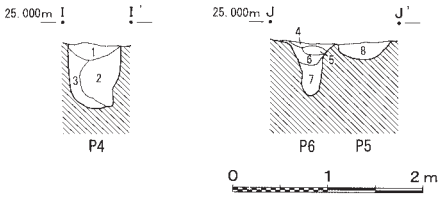
69号住居跡



69号住居跡覆土
1. 暗褐色土．締まりやや強．
　ローム粒(1～3mm)多量．焼土粒、炭化物粒少量
2. 茶褐色土．硬く締まる．ローム粒含む
3. 褐色土+ローム塊．硬く締まる．貼床
4. 暗褐色土．
5. 黄褐色土．



69号住居跡内　土坑覆土
1. 暗褐色土．硬く締まる．ローム粒、焼土粒少量
2. 茶褐色土．硬く締まる．ローム塊と褐色土粒の混合土

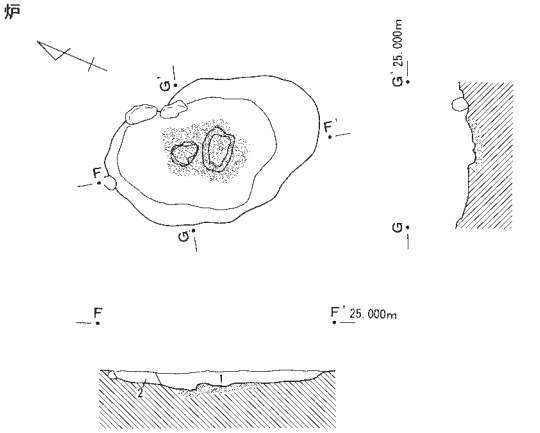


ピット覆土
1. 暗褐色土．硬く締まる．ローム粒多量．焼土粒少量
2. ローム塊主体層．硬く締まる
3. 褐色土+ローム粒・塊．締まり無
4. 暗褐色土．締まり有．ローム粒多量
5. ローム塊
6. 暗褐色土．締まり無．ローム粒多量
7. 褐色土．
8. 暗褐色土．締まり有．ローム塊少量．褐色土塊含む

第67表　東台遺跡第22地点69号住居跡内ピット一覧表

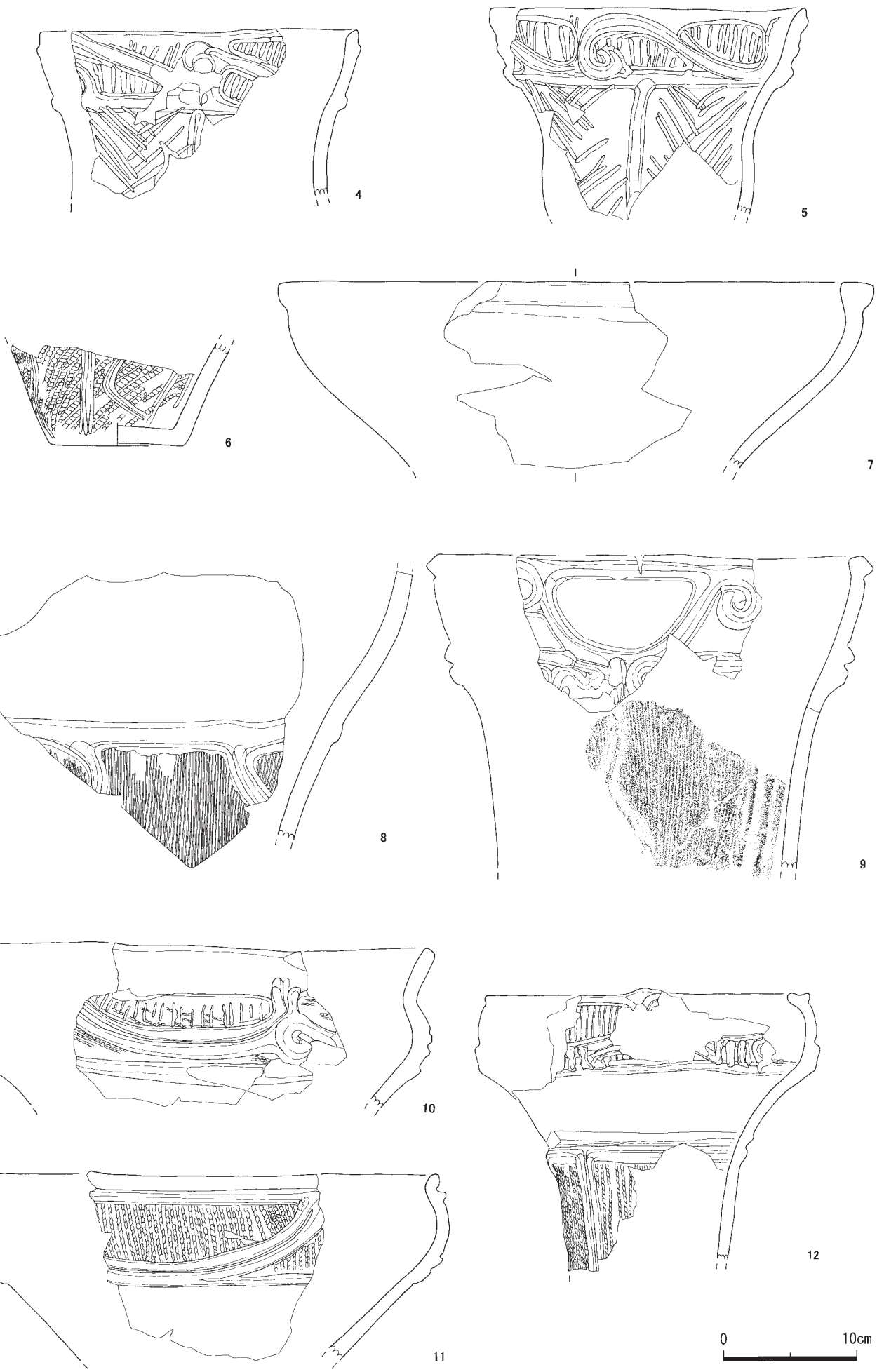
No.	形態	確認面径(cm)	底径(cm)	深さ(cm)	備　考
1	楕円形	70×65	26×25	82	縄文土器。
2	円　形	38×36	18×14	56	
3	楕円形	66×61	21×18	68	縄文土器。
4	不整円形	79×60	26×18	69	
5	楕円形	61×46	38×29	19	
6	楕円形	69×57	20×16	55	

炉

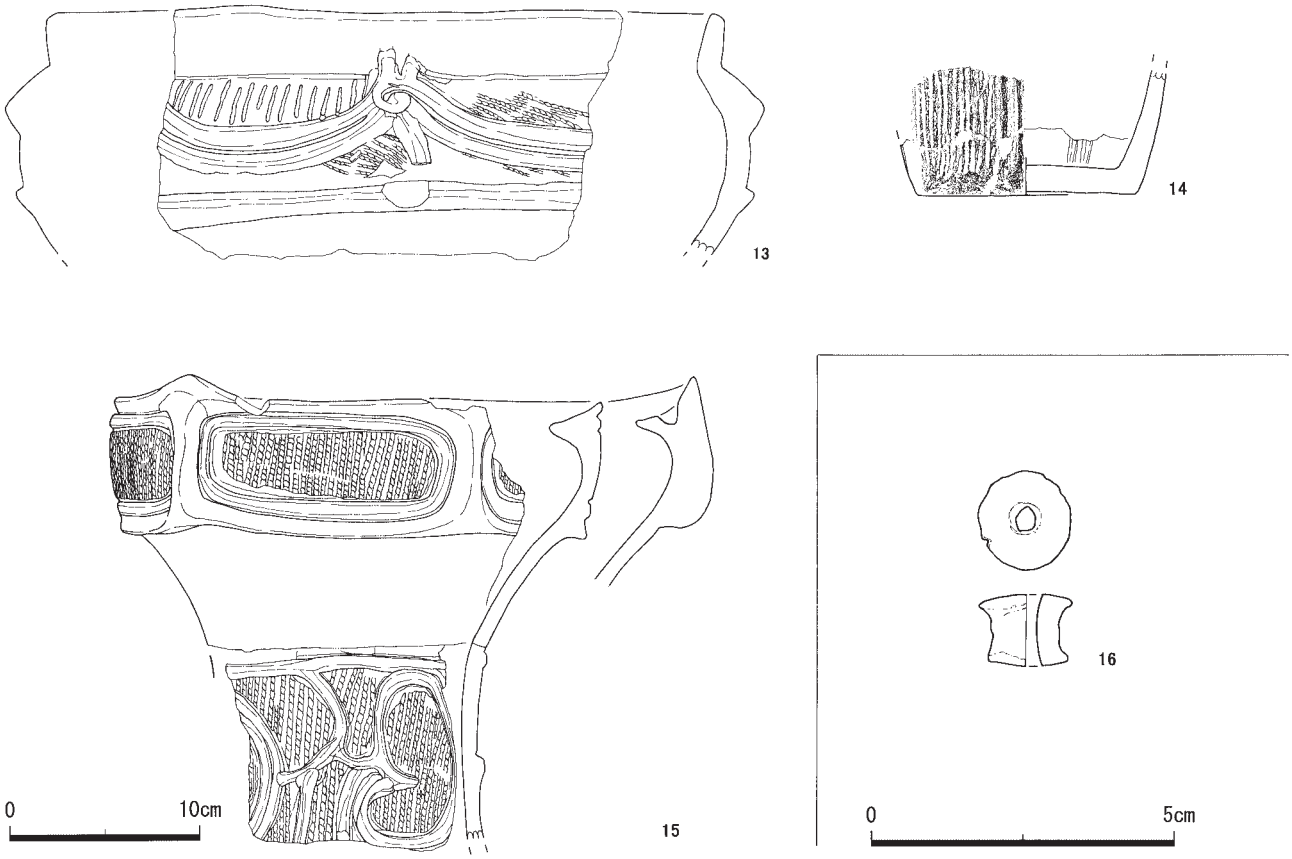


炉覆土
1. 暗褐色土．締まり有．ローム粒少量．焼土粒多量
2. 暗褐色土．締まり有．ローム粒多量．焼土粒少量

第92図　東台遺跡第22地点69号住居跡（1/80）・炉（1/40）



第93図　東台遺跡第22地点出土遺物①　縄文土器（1/4）



第94図　東台遺跡第22地点出土遺物②　縄文土器・土製品（1/4・4/5）

第68表　東台遺跡第22地点出土遺物観察表①　縄文土器

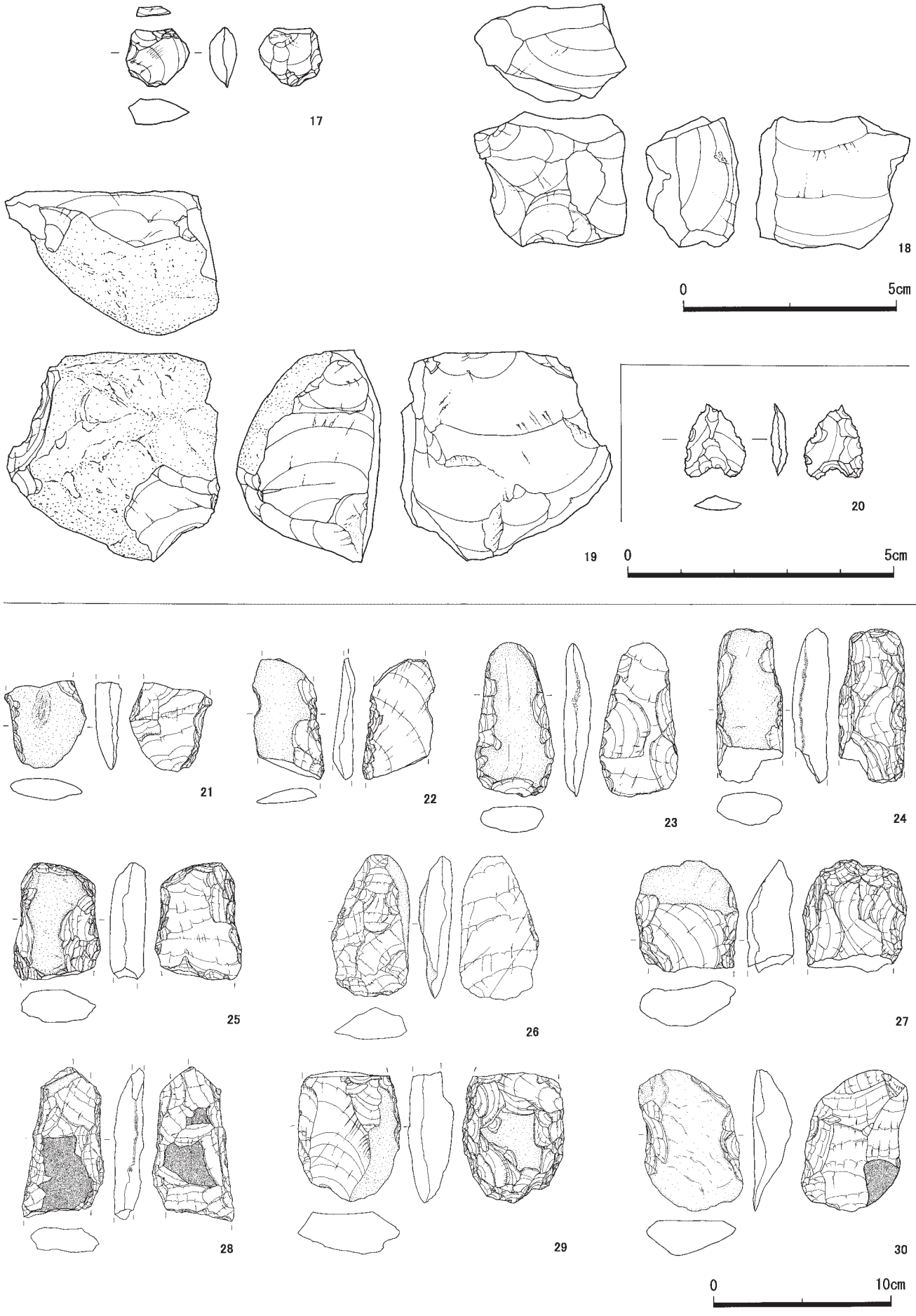
（　）は推定値，〈　〉は残存値，備考欄の写番号は写真図版番号

図版番号	遺物番号	出土遺構	出土状況	口径(㎜)	底径(㎜)	高さ(㎜)	遺存部位	器形	地文	文様要素	型式	備考
88	1	65号住居跡	覆土	110	不明	〈103〉	口縁部・胴部	甕	—	口縁部無文。頸部に隆帯がめぐり、隆帯の直上に等間隔で穿孔。	勝坂Ⅲ	有孔鍔付/写36
89	2	66号住居跡	埋甕	290	不明	〈210〉	口縁部・胴部	深鉢	縦位撚糸文	口縁部を隆帯で半月状区画。頸部無文帯。胴部隆帯で蛇行・直下懸垂文。	加曽利ＥⅠ新	巻頭８・写36
91	3	67号住居跡	炉体	381	不明	〈157〉	口縁部	深鉢	縦位撚糸文	口縁部に隆帯でＳ字状文様。頸部無文帯。	加曽利ＥⅠ新	写36
93	4	64号住居跡	覆土	(235)	不明	〈126〉	口縁部・胴部	深鉢	沈線	口縁部を隆帯で区画、区画内集合沈線。胴部に矢羽状沈線。	曽利Ⅲ	写36
	5	64号住居跡	覆土	(235)	不明	〈160〉	口縁部・胴部	深鉢	沈線	口縁部を隆帯で区画、区画内集合沈線。胴部に矢羽状沈線。	曽利Ⅲ	写36
	6	66号住居跡	覆土	不明	100	〈75〉	底部	深鉢	RL単節縄文	胴部に平行沈線で蛇行・直下懸垂文。	加曽利ＥⅠ新	写36
	7	66号住居跡	覆土	(420)	不明	〈120〉	口縁部	不明	無文	全面無文。	中期	写36
	8	66号住居跡	覆土	不明	不明	〈220〉	口縁部・胴部	深鉢	縦位条線	口縁部無文。胴部に隆帯で蛇行・直下懸垂文。	加曽利ＥⅠ新	写36
	9	66号住居跡	覆土	(318)	不明	〈248〉	口縁部・胴部	深鉢	縦位条線	口縁部を隆帯で区画。胴部に隆帯で蛇行・直下懸垂文。	加曽利ＥⅠ新	写37
	10	67号住居跡	覆土	(330)	不明	〈122〉	口縁部	浅鉢？	斜位撚糸文	口縁部無文。２本隆帯で半月状区画。区画内に集合沈線。	加曽利ＥⅠ新	写37
	11	67号住居跡	覆土	(340)	不明	〈142〉	口縁部・頸部	深鉢	縦位撚糸文	口縁部に隆帯で半月状区画。区画内縦位撚糸文。頸部無文帯。	加曽利ＥⅠ新	写37
	12	67号住居跡	覆土	(240)	不明	〈216〉	口縁部・胴部	深鉢	縦位撚糸文	口縁部を隆帯で区画。頸部無文帯。胴部に２本隆帯で直下懸垂文。	加曽利ＥⅠ新	写37
94	13	67号住居跡	覆土	(346)	不明	〈130〉	口縁部	浅鉢？	斜位撚糸文	口縁部無文。２本隆帯で半月状区画。区画内に集合沈線や斜位撚糸文を施文。	加曽利ＥⅠ新	写37
	14	67号住居跡	覆土	不明	112	〈64〉	底部	深鉢	縦位撚糸文	胴部に２本隆帯で直下懸垂文。	加曽利ＥⅠ新	写37
	15	67号住居跡	覆土	(264)	不明	(364)	口縁部・胴部	深鉢	斜位撚糸文	口縁部に隆帯で楕円区画。頸部無文帯。胴部に隆帯で唐草文様。	加曽利ＥⅠ新	写37

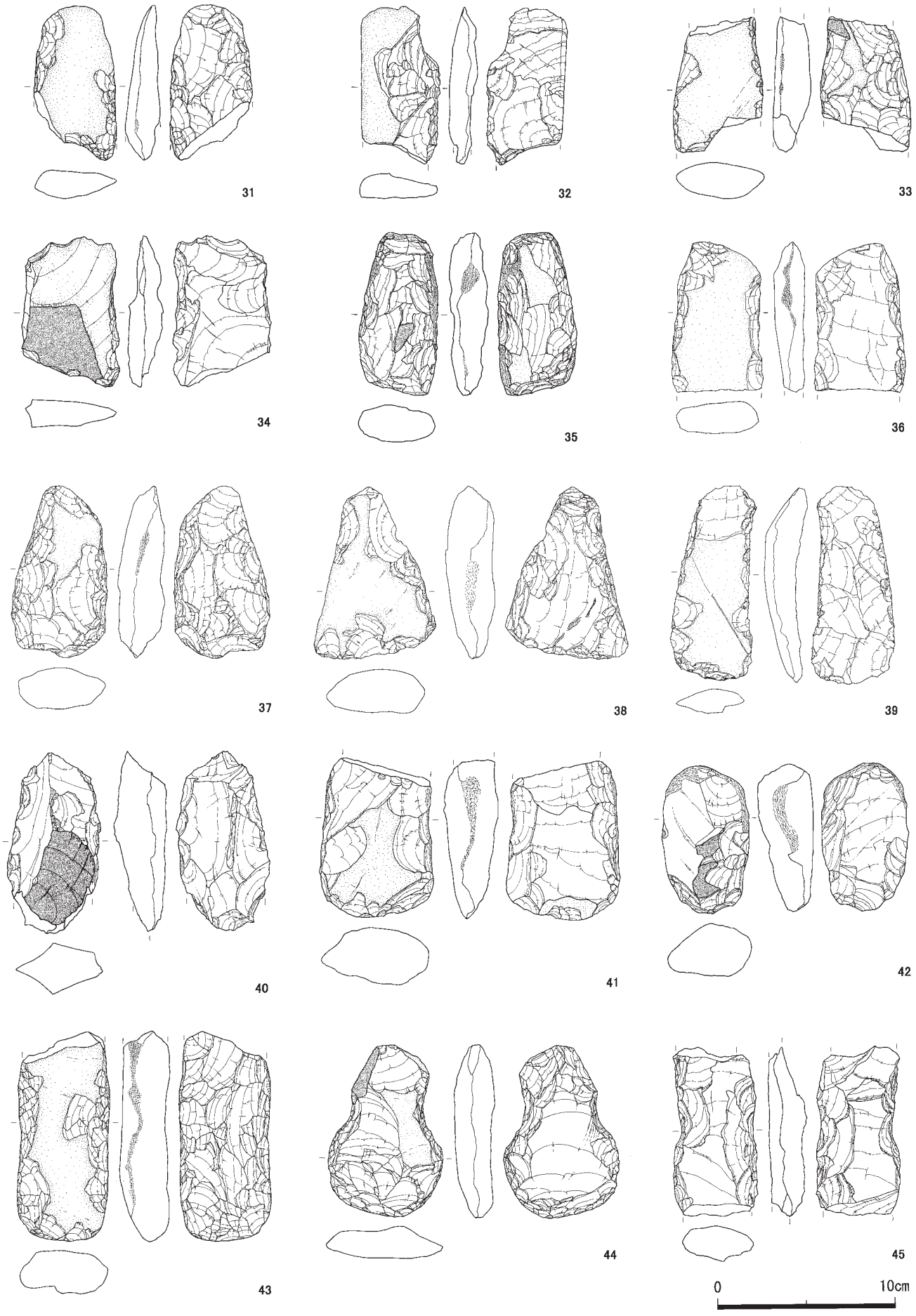
第69表　東台遺跡第22地点出土遺物観察表②　土製品

備考欄の写番号は写真図版番号

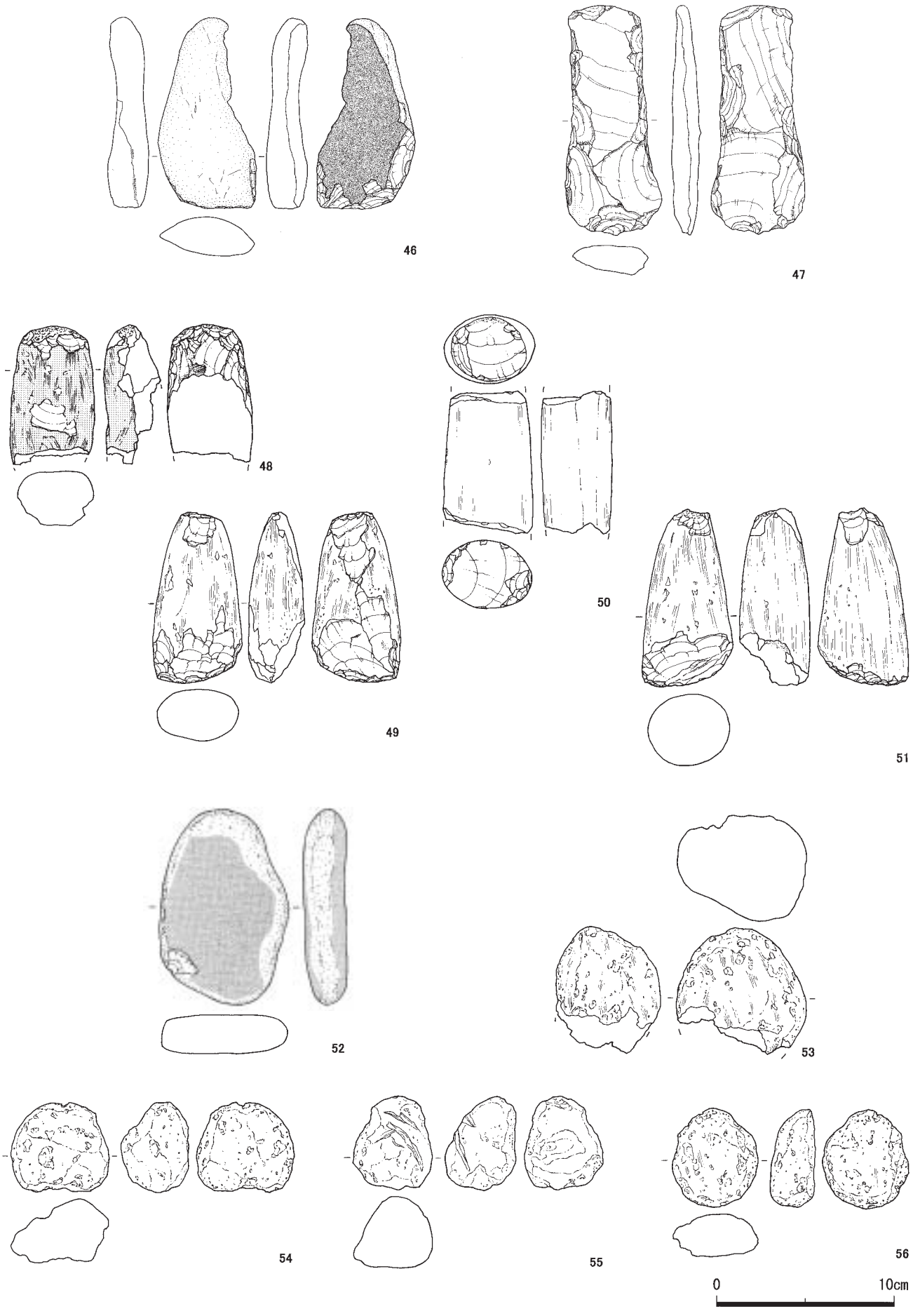
図版番号	遺物番号	出土地	種別	直径(㎜)	厚さ(㎜)	質量(g)	利用部位	遺存度	備　考
94	16	66号住居跡	土製品・耳栓	13～18	6	3.9	—	完形	外面ナデ＋弱いミガキ／写37



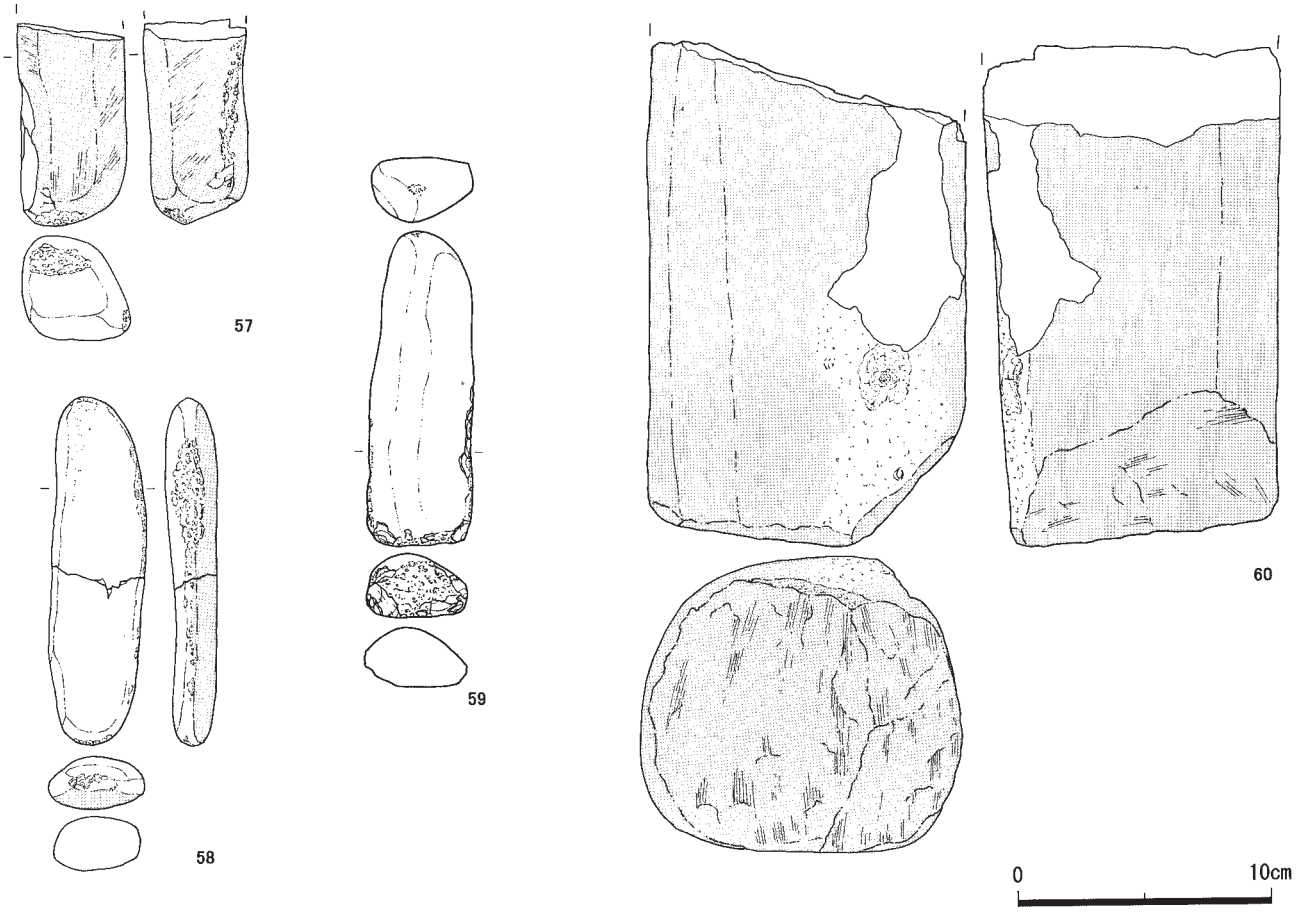
第95図　東台遺跡第22地点出土遺物③　縄文石器（4/5・1/1・1/3）



第96図　東台遺跡第22地点出土遺物④　縄文石器（1/3）



第97図　東台遺跡第22地点出土遺物⑤　縄文石器（1/3）



第98図　東台遺跡第22地点出土遺物⑥　縄文石器（1/3）

報告書抄録

ふりがな 書　名	にしのはらいせきさん 西ノ原遺跡Ⅲ　－西ノ原遺跡第69・75・77・88地点の発掘調査概要報告書－ ひがしだいいせきさん 東台遺跡Ⅲ　－東台遺跡第22・26地点の発掘調査概要報告書－						
シリーズ名	大井町遺跡調査会報告第13集						
編著者名	梶原　勝・花岡秀雄						
編集機関	埼玉県大井町遺跡調査会	所在地	〒356-8555 埼玉県入間郡大井町中央一丁目１番１号 TEL　049(261)2811				
発行日	2004年（平成16年）６月30日						
所収遺跡 地点名	ふりがな 所在地	市町村 コード	北　緯	調査開始		調査原因	特記事項
		遺跡 コード	東　経	調査終了	調査面積	担当者	
	種別／主な時代、主な遺構、主な遺物						
にしのはらいせき 西ノ原遺跡 だいちてん 第69地点	なえま 苗間106	113221	35° 44′ 47″	1994/5/16		店舗	縄文時代中期集落の南西部にあたる住居群。
		001	139° 39′ 11″	1994/10/24	1,821㎡	鍋島直久	
	集落跡／縄文、住居跡28・土坑６・ピット11、縄文土器（勝坂式・加曾利Ｅ式・曽利式）・石器・土製品(土製円盤・土製片錘)／中・近世、溝１、磁器（ボタン状磁器製品）・金属製品（簪）						
にしのはらいせき 西ノ原遺跡 だいちてん 第75地点	なえま 苗間122	113221	35° 44′ 50″	1995/6/2		倉庫･事務所	重複の著しい住居密集部。
		001	139° 39′ 13″	1995/9/23	379㎡	鍋島直久	
	集落跡／縄文、住居跡17・集石土坑１・集石２・土坑４・ピット９、縄文土器（勝坂式・加曾利Ｅ式・曽利式）・石器・土製品（耳栓・土器片錘・土製円盤）／近世、溝１、土製品（泥面子）						
にしのはらいせき 西ノ原遺跡 だいちてん 第77地点	なえま 苗間143-2	113221	35° 44′ 52″	1995/6/1		店舗	土坑・ピットの比率が高い。
		001	139° 39′ 14″	1995/7/28	347㎡	高﨑直成	
	集落跡／縄文、住居跡１・土坑18・ピット58／縄文土器（勝坂式・加曾利Ｅ式・曽利式）・石器・土製品（土製円盤）／近世、溝４、土製品（泥面子）・金属製品（煙管）						
にしのはらいせき 西ノ原遺跡 だいちてん 第88地点	なえまにしはら 苗間西ノ原 182-3、189-2 202-1	113221	35° 44′ 58″	1996/8/7		共同住宅	
		001	139° 39′ 16″	1996/8/30	745㎡	高﨑直成	
	縄文、土坑４（内落とし穴１）・ピット29／近世、柵列１、金属製品（銭貨）						
ひがしだいいせき 東台遺跡 だいちてん 第22地点	おおい 大井 651-6	113221	35° 44′ 44″	1994/5/30		店舗	縄文時代中期集落の住居密集部。
		024	139° 38′ 45″	1994/7/30	146㎡	高﨑直成	
	集落跡／縄文、住居跡６・土坑１、縄文土器（勝坂式・加曾利Ｅ式・曽利式）・石器・石製品・土製品（耳栓）／近世、金属製品（煙管）						
ひがしだいいせき 東台遺跡 だいちてん 第26地点	おおいひがしだい 大井東台 601-1･4･5	113221	35° 45′ 10″	1997/1/14		共同住宅	鉄滓は８世紀後半の製鉄関連遺跡（第15・18地点）との関連か。
		024	139° 38′ 47″	1997/3/18	2,248㎡	坪田幹男	
	集落跡／縄文、住居跡１・土坑４（内落とし穴１）・ピット24、縄文土器・石器／古代、金属遺物（鉄滓）／近世、土製品（近世芥子面）／近代、ガラス製品（石蹴り）						

西ノ原遺跡第88地点土坑 3（落とし穴）

西ノ原遺跡第88地点柵列

東台遺跡第22地点調査区全景

東台遺跡第22地点64号住居跡

東台遺跡第22地点64号住居跡炉検出状況

東台遺跡第22地点64号住居跡遺物（５）出土状況

東台遺跡第22地点64(右)・65(奥左)号住居跡

東台遺跡第22地点65(上)号住居跡

東台遺跡第22地点65号住居跡遺物（１）出土状況

東台遺跡第22地点66号住居跡

東台遺跡第22地点66号住居跡炉

東台遺跡第22地点66号住居跡埋甕（２）検出状況

東台遺跡第22地点66号住居跡埋甕（２）土層堆積状況

東台遺跡第22地点66号住居跡遺物出土状況

東台遺跡第22地点66号住居跡遺物（９）出土状況

東台遺跡第22地点67号住居跡遺物出土状況

東台遺跡第22地点67号住居跡遺物(15)出土状況

東台遺跡第22地点67号住居跡遺物(16)(耳栓)出土状況

東台遺跡第22地点67号住居跡ピット土層堆積状況

東台遺跡第22地点67号住居跡

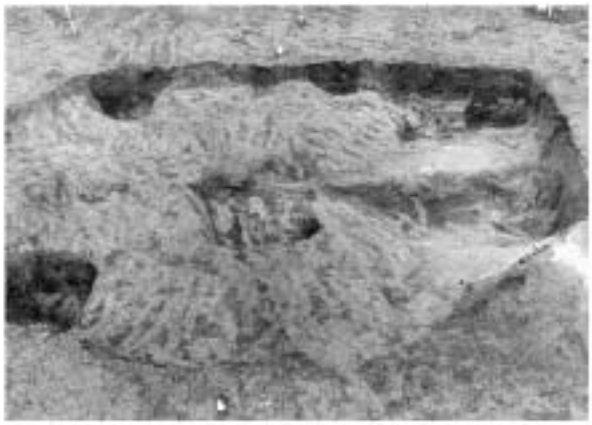
東台遺跡第22地点67号住居跡炉体土器(３)検出状況

東台遺跡第22地点67号住居跡炉体土器(３)出土状況

東台遺跡第22地点68号住居跡

東台遺跡第22地点69号住居跡

東台遺跡第22地点69号住居跡炉


東台遺跡第22地点土坑 1

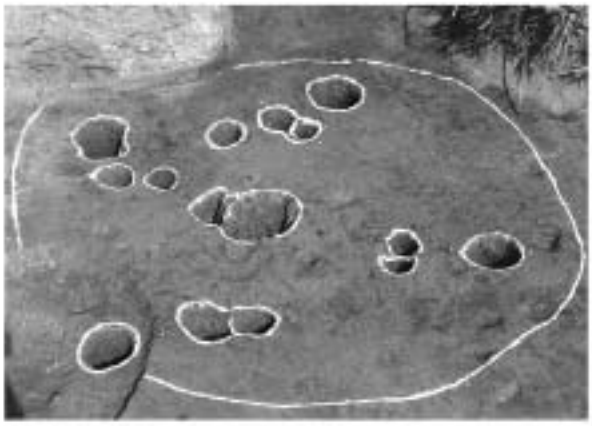
東台遺跡第26地点調査区東側

東台遺跡第26地点76号住居跡

東台遺跡第26地点76号住居跡炉 1 面検出状況

東台遺跡第26地点76号住居跡炉 2 面検出状況

東台遺跡第26地点76号住居跡


東台遺跡第26地点76号住居跡完掘

東台遺跡第22地点出土遺物①

1

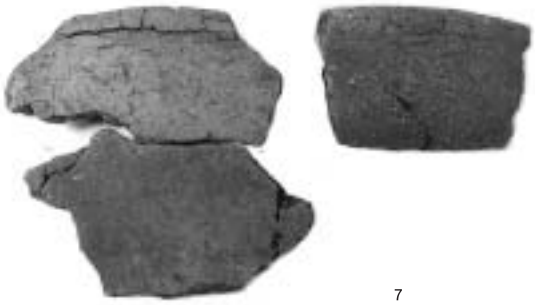
2

3

4

5

6


7

8

9

10

12

11

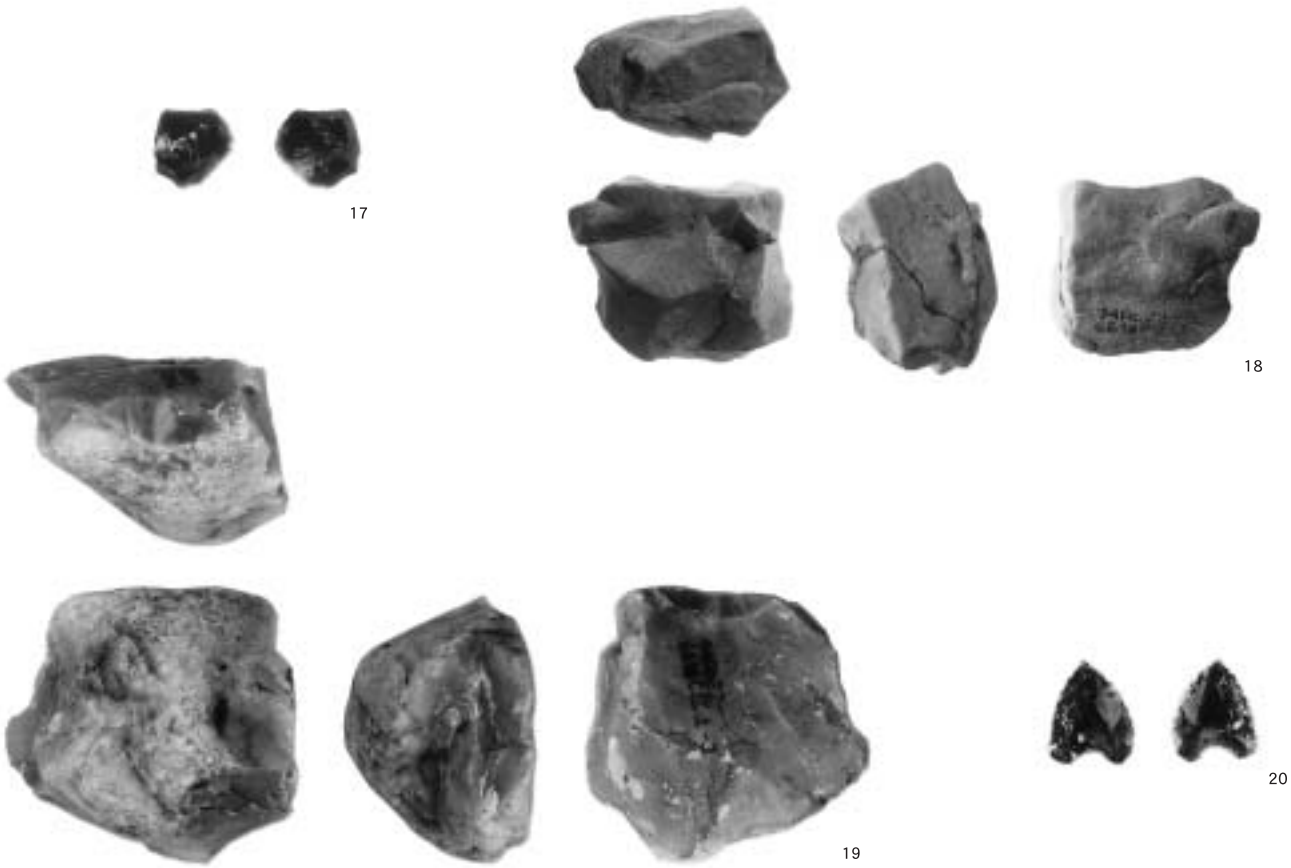
13

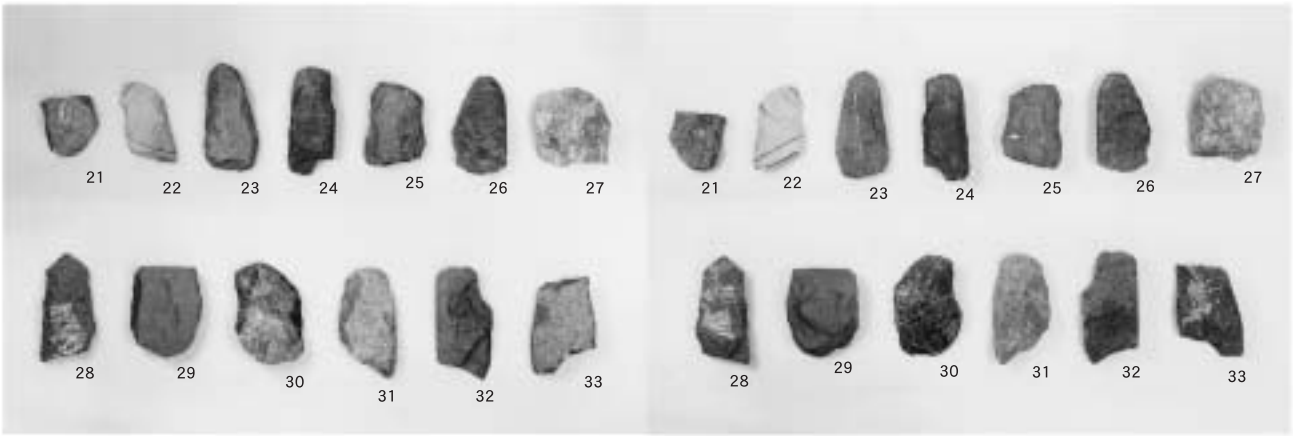
15

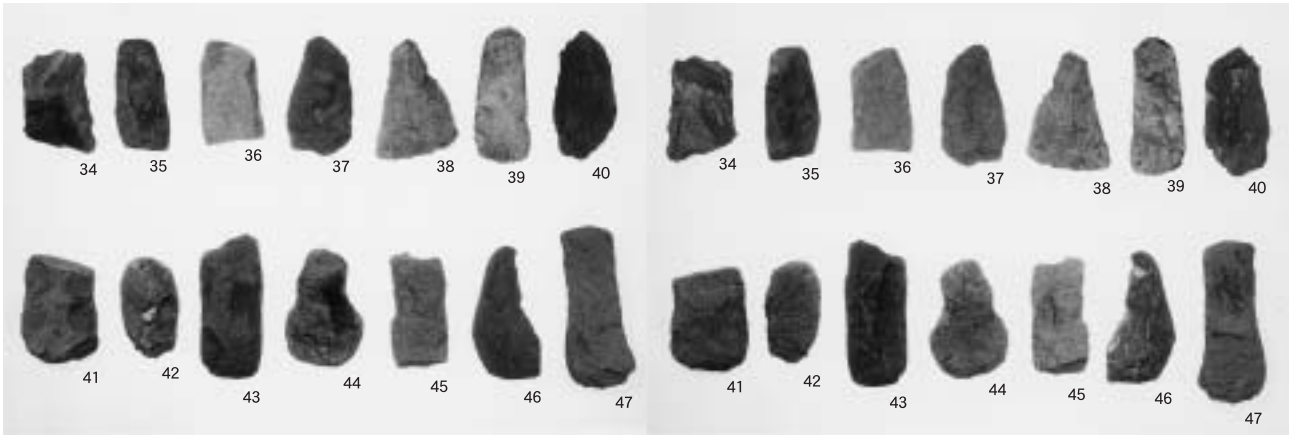
14

16

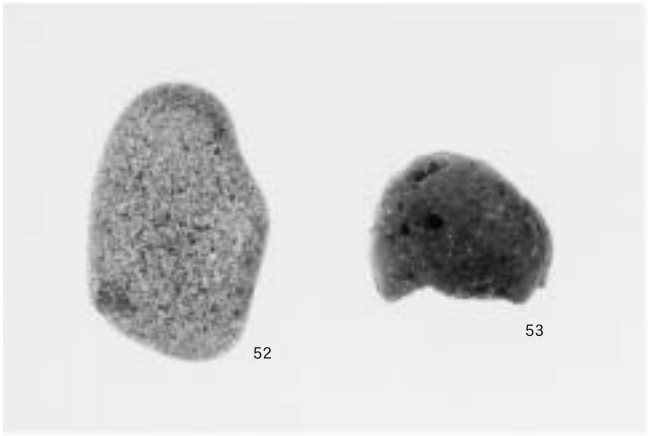
東台遺跡第22地点出土遺物③

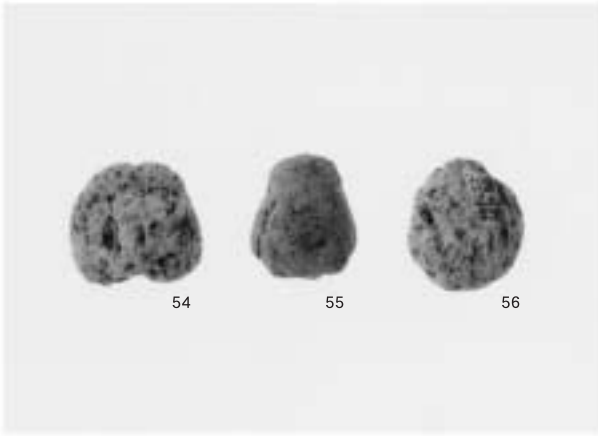


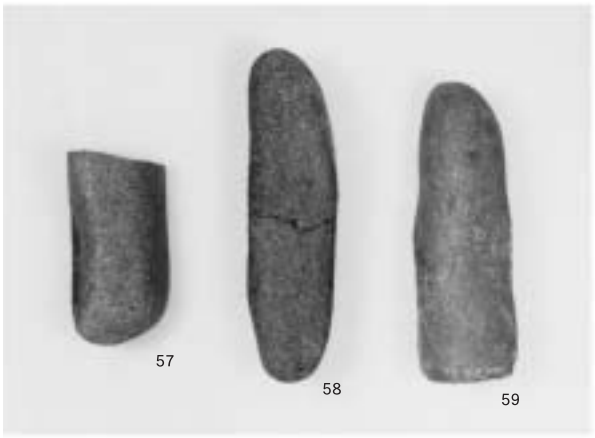




48
49
50
51
48
49
50
51


52
53


54
55
56


57
58
59

60

61